

中央地区防災計画

(令和4年2月作成)

中央地区まちづくり会議
中央地区防災計画検討部会

目 次

1 総 則

第1章 地区防災計画の方針

1 目 的	1
2 地区防災計画の構成及び組織編成	1
3 計画の修正	3

第2章 自助・共助の基本及び地区居住者等の役割

1 地区居住者の役割	3
2 自主防災組織の役割	3
3 事業者の役割	4
4 共同住宅管理者等の役割	4

第3章 地区の概要

1 自然的条件	5
2 社会的条件	5

第4章 防災アセスメントによる地区被害想定

1 想定地震と条件	6
2 建物被害	6
3 人的被害	7

2 災害予防計画

第1章 災害に強い地区づくり

1 基本方針	8
2 自主防災組織の育成支援	8
3 自主防災組織の編成と各班の役割	8
4 出火防止及び初期消火対策	1 1
5 火災延焼対策	1 1
6 空き家対策	1 1
7 災害危険の把握	1 2
8 高層共同住宅等の災害対策	1 2
9 感染症対策の実施	1 2

第2章 災害に対する備え

1	基本方針	1 3
2	防災知識の普及・啓発	1 3
3	災害に備えた各家庭での取組	1 3
4	防災訓練の実施	1 4
5	防災資機材等の点検・管理	1 5
6	災害時要援護者の把握、避難支援体制	1 5

3 応急対策計画

第1章 地区災害対策本部活動

1	地区災害対策本部の設置	1 6
2	本部の活動	1 6
3	本部の廃止	1 6
4	災害時の連絡体制	1 6
5	情報の収集・伝達	1 6

第2章 応急対策活動

1	水防活動、初期消火活動	1 9
2	救出・救護・搬送	2 1
3	避難誘導	2 4
4	災害時要援護者対策	2 6
5	住民の安否確認	2 9
6	在宅避難者の把握・支援	2 9
7	車中泊等の避難所以外の避難者への対応	2 9
8	避難所運営	2 9
9	多様な視点に基づいた避難所等の運営	3 3
10	ボランティアの活動について	3 3
11	他組織との連携	3 4
12	南海トラフ地震臨時情報の内容に応じた防災対応	3 5

4 資料編

	地区の避難場所・避難所	3 6
	地区別防災カルテ	

1 総 則

第1章 地区防災計画の方針

1 目的

東日本大震災をはじめ、これまでの多くの災害から、大規模災害の発災直後には、消防や各行政機関など、「公助」による対応にも限界があるということが教訓として得られたため、自らの身は自ら守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで守る「共助」の考え方を基本に、発災時に市民や地域自らが対応できる体制をつくることが重要である。

このため、地域の特性に応じて、大地震や風水害など様々な災害の危険性を考慮しながら、地域における防災力を高めることを目的とする。

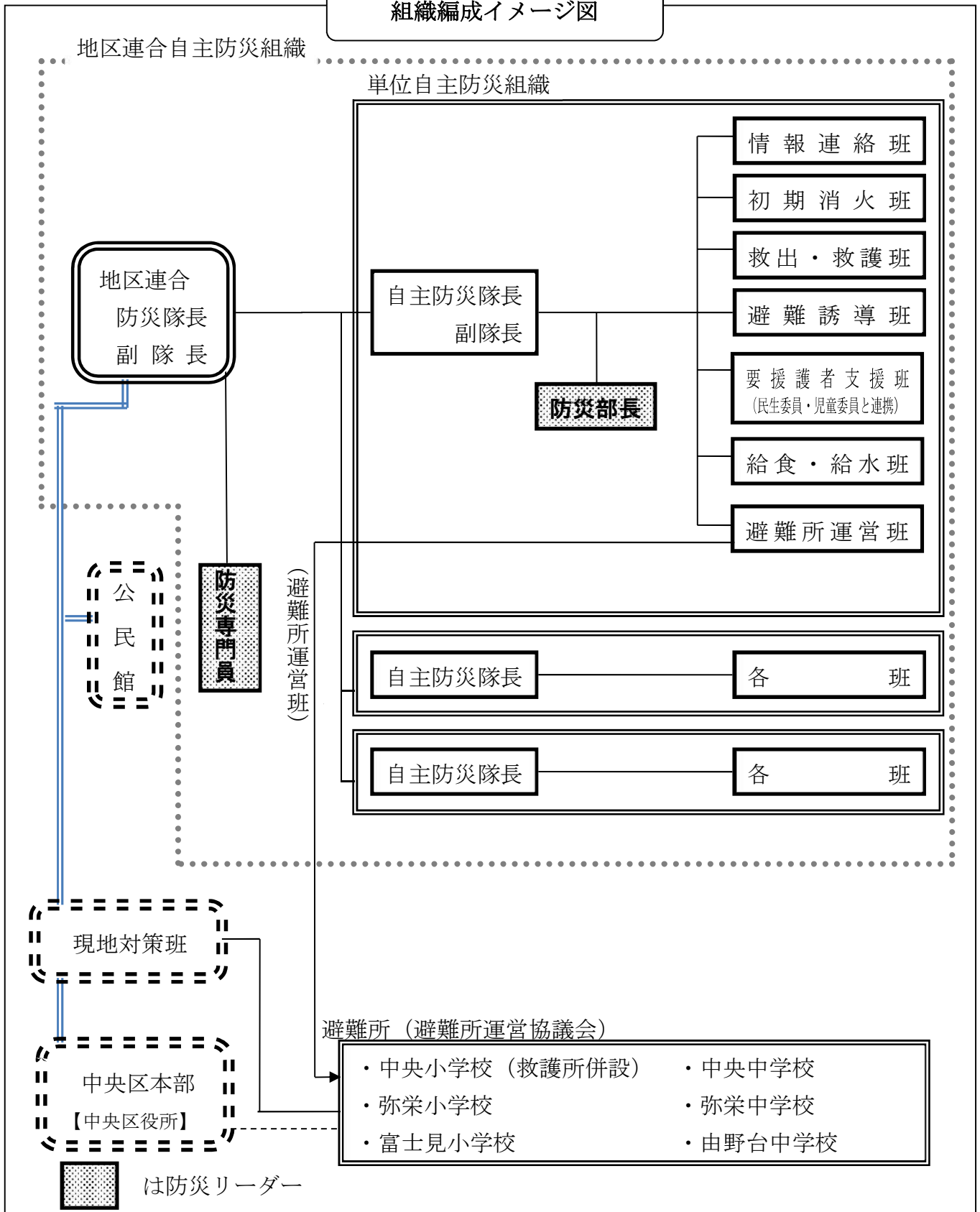
2 地区防災計画の構成及び組織編成

中央地区防災計画は、総則、予防計画編、応急対策編（地震・風水害）で構成する。

地区防災計画のもととなる組織は、地域に密着した活動が不可欠なため、自治会等を母体とした単位自主防災組織及び、地区としての連絡体制や協力体制を確保し、災害発生時の応急活動を迅速かつ効果的に行うための地区連合自治会を単位とした連合自主防災組織とする。



組織編成イメージ図



※ この他、地区連合防災隊長は日頃の訓練等を中心に、必要に応じて、防災マイスターの協力を求めることとする。

3 計画の修正

この計画は、毎年検討を加え、必要があるときはこれを修正する。

また、多様な主体の意見を反映できるよう、計画の検討・修正の際は、女性、災害時要援護者支援団体、地域企業等の参画を促進する。

※計画の修正（見直し案）基本方針

- ・計画内容に影響のない修正（法令等の引用条文など）については、適宜、修正を行い、まちづくり会議等に報告をすることとする。
- ・計画内容に変更を伴う修正については、計画策定組織に準じた構成員により、検討・調整を行い、まちづくり会議へ付議し、意見を聞くものとする。

第2章 自助・共助の基本及び地区居住者等の役割

1 地区居住者の役割

- (1) 「自らの身は自ら守る(自助)」及び「自分たちのまちは自分たちで守る(共助)」という意識を持ち、防災訓練など地区の防災活動に積極的に参加し、各個人、事業所、自主防災組織等の防災行動力の向上及び相互協力関係の強化、災害時の連絡体制の整備、ルールづくりをすすめ、災害に強い居住者と地区を形成する。
- (2) 常に災害に対する備えを怠らず、住居や所有若しくは使用する建造物等の安全性を確保するとともに、非常時に対する少なくとも3日以上以上の食料、飲料水、生活必需品等の備蓄、非常持出し品の準備など「自助」の取組を実施する。
また、過去の災害の教訓を伝承し、災害時には自らの情報を発信する。
- (3) 災害時には、共助の視点の下、地区とりわけ近隣世帯、いわゆる「隣近所」が相互に協力して助け合い、情報の把握、出火の防止、初期消火、救出・救護等に努めるとともに、避難するに当たっては、災害時要援護者の支援を行い、冷静かつ積極的に行動する。
- (4) 自主防災組織へ参加し、体制等の整備、教育訓練に協力するとともに、災害時には地区の住民・事業者と連携して各種活動を円滑に実施するなど「共助」の取組を実施する。
- (5) その他、市及び各防災関係機関の行う防災対策活動に協力する。

2 自主防災組織の役割

- (1) 日頃から、地区内の危険箇所、避難経路、災害時要援護者等の状況等を把握し、地区内の防災に係る方針の策定支援や防災マップ、防災活動用資機材の整備、点検を実施する。

- (2) 組織の班編成や活動内容を明確にしておき、組織員の教育訓練を推進するとともに、地区住民の参加、地区事業者との連携の促進等、地区全体の防災力を向上させる取組を実施する。
- (3) 災害時には、情報の収集・伝達、救出・救護、消火、避難誘導、避難所の運営協力、災害時要援護者の支援等を実施する。
- (4) 自主防災組織の防災リーダーの任期は、発災時における業務や知識の継続性を確保するため原則として2年以上とする。
- (5) 地区内の共同住宅管理者及び賃貸住宅経営者と連携し、共同住宅住民による防災等の地域活動への参加を促進するよう努める。

3 事業者の役割

- (1) 日頃から、その管理する施設及び設備の耐震性の確保、発災時における従業員等の一斉帰宅抑制に必要な3日分以上の食料及び飲料水等の備蓄、初期消火、救出・救護等のための資機材の整備、従業員の安否確認及び従業員と家族の連絡手段の確保、さらに、従業員の防災訓練や防災に関する研修等の積極的な実施に努める。
- (2) 対策の責任者を定め、災害が発生した場合の従業員のとるべき行動を明確にし、地区住民及び自主防災組織と連携して、地区における防災活動に参加する等、地区の共助に取り組むよう努める。
- (3) 災害が発生した場合には、行政、地区住民及び自主防災組織と連携して、情報の収集及び伝達、消火、救出・救護、避難誘導、帰宅困難者対策等を積極的に行うよう努める。

4 共同住宅管理者等の役割

- (1) 日頃から、建物及び設備の耐震性の維持、確保に努める。
- (2) 地震等によるエレベーターや電気、ガス、上下水道等の停止を想定した、居住者の生活支障対策用設備及び資機材の整備並びに共同住宅内の自主防災体制の整備に努める。
- (3) 周辺住民や自主防災組織との連携強化に努める。
- (4) 災害時には、居住者等の防災活動を統括するとともに、高層階居住者の生活支障対策を実施するよう努める。

第3章 地区の概要

<中央地区>

相模原市中央区 相模原 5,6丁目、中央 2,3,6丁目、矢部 1~4丁目、
富士見 1~6丁目、千代田 1丁目、相生 1~4丁目、弥栄 1~3丁目、
高根 2,3丁目、松が丘 1,2丁目、由野台 3丁目

1 自然的条件

地理的特徴

台地（上段）にあり、国道16号が地区のほぼ中央をやや斜めに横断する。住宅地が広く分布するが、国道16号沿いには商業施設、業務施設が多い。北東をJR横浜線が通り、矢部駅があり、住宅が立ち並んでいる。

がけ崩れ、土石流などの土砂災害の要因となる急傾斜地やはん濫の恐れのある河川等は見られない。

河川がないことや、地下水位が低いため、河川や井戸を消防水利*として直接利用することは困難である。

* 消防水利；消火活動の際に使用する水源

2 社会的条件

(1) 人口

中央地区の人口（住民基本台帳）は令和3年4月1日現在、35,881人である。年齢別の構成は、年少人口（15歳未満）が3,719人（約10.4%）、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）が23,414人（約65.3%）、高齢人口（65歳以上）が8,748人（約24.4%）となっており、全市平均より年少者と高齢者がともにやや小さい構成になっている。

なお、外国人の登録人口は978人（約2.7%）である。

(2) 交通

一般国道は、横浜市の西区を起終点とする国道16号、県道は57号相模原大蔵町線と507号相武台相模原線の2路線が通過している。

鉄道はJR横浜線が通過し、矢部駅があるが、地区住民の最寄駅としては、矢部駅の他、相模原駅、淵野辺駅に近い地域がある。

第4章 防災アセスメントによる地区被害想定

東日本大震災や国の地震被害想定の見直しを踏まえ、本市に大きな被害をもたらす可能性がある地震の想定を最新の知見に基づいて見直し、被害想定を実施した。

1 想定地震と条件

想定地震と発生時刻等の条件は、次のとおりである。

想定地震	相模原市東部直下地震	本市の東部地域直下の地震（マグニチュード 7.1）
	相模原市西部直下地震	本市の西部地域直下の地震（マグニチュード 7.1）
	大正関東タイプ地震	相模トラフで発生するマグニチュード 8 クラスの海溝型地震
条件	季節・時刻	夏 12 時、冬 18 時、冬深夜 2 時の 3 ケース
	天候	晴れ、風速 3 m（本市の平均風速）

2 建物被害

建物被害は次のとおりである。（冬 18 時）*1、*2

想定地震	地区	建物総数	全壊	焼失	大規模半壊	半壊
東部直下	中央区	62,987	3,004	481	49	9,175
	うち 中央地区	7,002	364	43	0	1,073
	緑区	54,014	1,693	238	10	6,249
	南区	61,172	3,268	646	89	9,480
	全市	178,173	7,964	1,366	147	24,904
西部直下	中央区	62,987	1,273	69	49	6,378
	うち 中央地区	7,002	125	3	0	705
	緑区	54,014	2,095	92	10	7,730
	南区	61,172	253	37	83	2,865
	全市	178,173	3,621	198	142	16,973
大正関東タイプ	中央区	62,987	398	0	33	3,713
	うち 中央地区	7,002	44	0	0	421
	緑区	54,014	69	0	3	1,106
	南区	61,172	858	0	90	5,453
	全市	178,173	1,324	0	126	10,272

3 人的被害

単位：人 (冬2時) *1、*2

想定地震		死者	閉込者	重傷者	軽傷者	避難者 当日	避難者 1週間後
東部 直下	中央区	185	1,116	224	1,393	9,063	23,423
	うち 中央地区	22	148	28	172	1,164	3,212
	緑区	107	593	147	1,064	4,908	12,805
	南区	207	1,226	228	1,366	10,052	24,529
	全市	498	2,935	599	3,823	24,024	60,757
西部 直下	中央区	77	486	98	889	4,314	16,527
	うち 中央地区	8	54	10	102	472	2,162
	緑区	133	706	177	1,277	5,531	14,049
	南区	15	103	20	342	1,440	8,157
	全市	225	1,295	294	2,507	11,285	38,733
大正 関東 タイプ	中央区	23	155	33	495	1,775	10,446
	うち 中央地区	3	20	4	58	212	1,419
	緑区	4	29	7	175	416	3,380
	南区	53	340	63	688	3,250	14,125
	全市	80	524	102	1,359	5,441	27,951

*1 今回の評価では最大の被害が見込まれる時間

*2 端数の積み上げにつき、他の資料と数値が若干違うことがありえる。

2 災害予防計画

第1章 災害に強い地区づくり

1 基本方針

震災時の火災や火災による延焼被害等を最小限にとどめるため、地区の特性に応じた災害対策を促進し、生命と財産を守る災害に強い地区づくりを推進する。

2 自主防災組織の育成支援

- (1) 防災隊長等は、地区防災活動の推進を図り、自治会等を中心とした自主防災組織の育成を推進するとともに地区内の防災リーダーを育成する。その際、女性の参画の促進に努めるものとする。
- (2) 中央地区は、急傾斜地や河川から離れているなど、その恵まれた地理的条件ゆえに、防災意識の維持が課題となりえる。自主防災組織が、災害時に有効に活動できるよう組織の充実強化及び防災意識の向上を図るための訓練等を促すとともに支援する。

3 自主防災組織の編成と各班の役割

(1) 単位自主防災組織

単位自主防災組織は、各自主防災組織の規模や活動の状況等に応じて編成することが大切であり、円滑な防災活動を行えるよう、以下の基本的な方針に沿った組織づくりとする。

自主防災隊長	地区連合自主防災組織との連絡調整や防災訓練等の計画・実施、組織内の情報伝達体制の整備
副隊長	自主防災隊長の補佐
防災部長	自主防災隊長の補佐及び防災活動に係る各班への専門的、技術的指導・指揮

本 部	各班の総合調整、地域全体の防災活動の統率
情報連絡班	情報の収集・伝達活動
初期消火班	消火器等による初期消火活動
救出・救護班	負傷者の救出・救護活動
避難誘導班	住民の避難誘導活動
避難所運営班	避難所の運営活動
給食・給水班	炊き出し等給食・給水活動
要援護者支援班	災害時要援護者への支援活動

【各班の平常時・災害時の役割】

	平常時	災害時
情報連絡班	啓発活動、情報伝達訓練及び連絡様式の準備等。	被害情報等を収集し、地区連合自主防災組織を通じて、市の現地対策班に連絡するとともに、正しい情報を住民に伝達する。
初期消火班	消火技術の習得や消火器等の事前点検を行うとともに、地域の事業所が持つ自衛消防隊との連絡体制の構築に努める。	安全を確保しつつ、初期消火活動を行い、火災の拡大を防御する。
救出・救護班	救出方法、応急手当の方法、担架搬送の要領等の技術を習得する。	周囲の人に協力を求め、負傷者等の救出・救護活動を行う。負傷者の応急手当と救護所への搬送。
避難誘導班	避難経路の安全チェック、危険要素のチェックを行う。	全員が安全に避難できるように避難誘導を行う。避難者の安全確保、安全確認を行う。
避難所運営班	避難所運営本部の立ち上げ及び運営方法について訓練を行う。	施設管理者や市職員と協力し、「避難所運営本部」を立ち上げ、避難所の自主的な運営を行う。
給食・給水班	炊き出し方法、給食の配分方法、給水方法を習得する。	給食・給水のルールをつくり、秩序ある給食・給水活動を行う。
要援護者支援班	要援護者の把握、支援方法の確立に努める。	関係団体や地域住民と協力して、要援護者各人の要望を親身になって聴き、要援護者活動に取り組む。

(2) 地区連合自主防災組織

地区連合防災隊長	防災に関わる市との連絡調整や地域防災訓練等の計画・実施、地区連合自主防災組織間の連絡協力体制づくり
副隊長	地区連合防災隊長の補佐
防災専門員	地区連合防災隊長の補佐及び防災活動に係る専門的、技術的指導・指揮

平常時	災害時
<p>地区連合防災隊長や防災専門員は、協力・連携し、情報の収集・伝達訓練、避難誘導訓練、避難所運営訓練、炊き出し等給食・給水訓練、災害時要援護者支援訓練など、単位自主防災組織を超えた地域防災訓練、イベント等の計画・実施を行う。</p> <p>地区連合防災隊長や防災専門員は、市や構成単位自主防災組織との間に立ち、防災関連情報等の連絡や防災訓練等に関する調整などを行う。</p>	<p>災害時には、地区連合防災隊長や防災専門員など、事前に決められた人員により、本部を設置し、市（現地対策班）・単位自主防災組織との間に立ち、情報のとりまとめ・伝達活動を行う。</p> <p>単位自主防災組織や避難所間の連絡・調整をするとともに、被害の大きいところに集中的な対応を行うなど、単位自主防災組織を超えた効果的な災害対応を行う。</p> <p>なお、地区連合自主防災組織の本部は、市の現地対策班とともに、各出張所及び本庁管内公民館に設置する。</p>

4 出火防止及び初期消火対策

(1) 出火防止

大地震時等においては、各所に同時多発的な出火が考えられ、道路、建物の損壊による障害物などが重なると、消防力は大きく阻害される。また、強風、夜間といった悪条件が加わると一層火災の拡大が懸念されることから、出火防止の徹底を図るため、各家庭において、主として次の事項に重点を置いて点検整備する。

- ① 火気使用設備器具の整備及びその周辺の整理整頓状況
- ② 可燃性危険物品等の保管状況
- ③ 消火器等の消火資機材の整備状況
- ④ その他建物等の危険箇所の状況

(2) 初期消火対策

すべての住民が自宅や隣近所といったごく身近なところで初期消火活動を実践し、火災の拡大を抑制することが重要であるため、安全を確保しつつ、迅速に初期消火活動を行い、火災の拡大を防ぐ。

初期に消火することができるようにするため、次の消火資機材を配備する。

- ① 小型動力ポンプの防火水槽付近への配備
- ② 消火器、簡易消火具等の各家庭における配備の促進

5 火災延焼対策

甚大な人命被害をもたらす市街地大火や火災旋風など、大規模地震に伴う火災延焼を最小限にとどめるために、道路の拡幅や建築物の不燃化を推進する。

木造密集地など市街地大火の危険の高いところや超高層建物などについては、感震ブレーカーの設置を促進するなどの啓発を行う。

6 空き家対策

市と連携して、所有者等による空き家の適正管理を啓発し、地区の防災力向上につなげていく。

7 災害危険の把握

災害予防に資するため、次のとおり地区固有の防災問題に関する把握を行う。
また、それらを記載した地図を作成し、地区内で情報共有する。

- (1) 把握事項は、次のとおりとする。
 - ① 危険地域、区域等
 - ② 地区の防災施設、設備
 - ③ 過去の災害履歴、災害に関する伝承
- (2) 把握の主な方法は、次のとおりとする。
 - ① 相模原市防災アセスメント調査
 - ② 相模原市地区別防災カルテ
 - ③ 相模原市ハザードマップ（洪水・土砂）
 - ④ 地区内の踏査（防災まち歩き）
 - ⑤ さがみはら防災マップ

8 高層共同住宅等の災害対策

高層共同住宅の管理者は、敷地・建物内に防災備蓄スペース、防災対応トイレなど、ライフラインが復旧するまでの間、居住者が生活を維持するための震災対策用設備等を確保するよう努める。

また、必要に応じ火災対策として、感震ブレーカー等の設置に努める。

9 感染症対策の実施

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ及びノロウイルスなどの感染症のまん延を防止するため、避難所運営マニュアルに基づく感染症対策を実施する。

第2章 災害に対する備え

1 基本方針

日ごろから災害に対する十分な備えを行うとともに、発災直後の迅速かつ効果的な対応を図ることで被害を軽減する。

2 防災知識の普及・啓発

地区住民の防災意識を高揚するため、次のとおり防災知識の普及・啓発を行う。

(1) 普及・啓発事項は、次のとおりとする。

- ① 防災組織及び防災計画に関すること。
- ② 地震、火災、水災等についての知識に関すること。
- ③ 各家庭における防災上の留意事項に関すること。
- ④ 地震発災後72時間における活動の重要性に関すること。
- ⑤ 食料等を3日以上確保することの重要性に関すること。
- ⑥ 住宅の安全対策に関すること。(耐震化、感震ブレーカー、家具の固定等)
- ⑦ ブロック塀の安全対策に関すること。
- ⑧ ペットの災害対策に関すること。
- ⑨ 南海トラフ地震臨時情報に関すること。
- ⑩ 防災メールやテレビ神奈川データ放送など防災情報の取得に関すること。
- ⑪ その他防災に関すること。

(2) 普及・啓発の方法は、次のとおりとする。

- ① 広報誌、パンフレット、リーフレット、チラシ等の配布
- ② 講演会、座談会、映画上映会等の開催
- ③ パネル等の展示
- ④ 防災地図等の作成

(3) 実施時期

火災予防運動期間、市防災週間等防災関係諸行事の行われる時期に行うほか、他の催し物に付随する形式で随時実施する。

3 災害に備えた各家庭での取組

月に一度は家族全員で防災会議を開き、地震災害を想定して、わが家の安全対策や避難の方法・緊急連絡手段等の取り決めなどの話し合いを行う。また、非常持ち出し品や防災用具の点検や補充を随時実施する。

4 防災訓練の実施

連合自主防災組織及び単位自主防災組織は、大地震等の災害の発生に備えて、情報の収集・伝達、初期消火、救出・救護、避難誘導、災害時要援護者対策等が迅速かつ適切に行えるよう、次により防災訓練を実施する。

(1) 訓練の種類

訓練は、個別訓練・総合訓練、起震車・煙体験ハウスなどの体験イベント型訓練及び図上訓練とする。

(2) 個別訓練

- ① 情報収集・伝達訓練
- ② 消火訓練
- ③ 避難訓練
- ④ 救出・救護訓練
- ⑤ 給食・給水訓練
- ⑥ クロスロード

(3) 総合訓練

総合訓練は、複数の個別訓練について総合的に行うものとする。

また、相模原市等が行う訓練に参加する。

(4) 体験イベント型訓練

防災を意識せずに災害対応能力を高めるために行うものとする。

(5) 図上訓練（DIG・HUG）

実際の災害活動に備えるために行うものとする。

(6) 訓練実施計画

訓練の実施に際しては、その目的、実施要領等を明らかにした訓練実施計画を作成する。

(7) 訓練の時期及び回数

総合訓練は年1回以上、個別訓練は原則として年1回以上実施する。

※ 防災マイスター

① 定義

自助・共助を中心とした防災知識の普及啓発を進めるための地域人材を育成する「さがみはら防災スクール」受講後に防災士の資格を取得した者に対し、専門的な防災知識を持った者として、相模原市が「防災マイスター」として認証している者。

② 役割

専門知識・技能を活用し、地域で防災に関する普及啓発を分かりやすく行う。

5 防災資機材等の点検・管理

(1) 防災資機材等の配備方針

防災資機材の配備は高齢化率等、各地区の実情に応じて計画的に行う。

(2) 防災資機材等の管理

防災資機材等の管理に関しては、次により行う。

定期点検

資機材の点検を年1回以上行う。

6 災害時要援護者の把握、避難支援体制

災害が発生した場合に、高齢者、障害者その他の特に配慮を要する者などに対する適切な応急対応及び救援活動を行うため、日頃から地区のコミュニティの形成や社会福祉活動に積極的に取り組み、災害時に備える。

なお、地区内における単位自治会などを中心とした災害時要援護者への避難支援活動については「相模原市災害時要援護者避難支援ガイドライン」を参考に行うこととする。

(1) 災害時要援護者名簿・マップ等の作成

災害時に避難状況を把握するため災害時要援護者名簿・マップ等を作成し、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、災害ボランティア組織、自治会等と連絡を取り合っ
て原則年1回更新する。

(2) 災害時要援護者の避難誘導、救出・救護等の検討

災害時要援護者に対する円滑な避難誘導や効果的な救出・救護等について予め検討し、訓練等に反映させる。

(3) 災害時要援護者の避難支援

市長から避難指示等が出たとき、又は地区防災組織の会長等が避難の必要があると認めたととき、会長等の避難支援開始の指示に基づき、災害時要援護者を安全に避難場所へ誘導する。

(4) 避難場所

資料編 参照

※災害時要援護者避難支援

災害時要援護者の避難支援には、マンパワー等の支援する力が不可欠であり、実効性のある避難支援を計画するために、避難支援等関係者になり得る者の活動実態を把握して、地域における避難支援等関係者をあらかじめ決めておくことが望ましい。その際、民生委員、社会福祉協議会、自主防災組織に限定して考える必要はなく、地域に根差した幅広い団体の中から、地域の実情にあった者とする。

また、避難支援等関係者となりうる者をより多く確保するのに当たっては、年齢要件等にとらわれず、地域住民の協力を幅広く得ることとする。

3 応急対策計画

第1章 地区災害対策本部活動

1 地区災害対策本部の設置

相模原市で「震度5強」以上の地震が観測された場合、または南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8以上の地震が発生した場合に発表される南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）もしくは風水害等により、地区に甚大な災害被害が想定される場合、地区防災隊長は中央公民館に「中央地区災害対策本部（以下「本部」という。）」を設置する。

本部を設置した場合には、「市中央区本部中央地区現地対策班（以下「現地対策班」という。）」にその旨を連絡する。

2 本部の活動

本部は、中央地区内の被害情報等の取りまとめを行うとともに、地区の状況について現地対策班に報告する。また、避難所運営協議会と現地対策班との連絡・調整を行う。

3 本部の廃止

地震、風水害等による災害発生のおそれなくなった場合、または南海トラフ地震臨時情報（調査終了）が発表された場合、もしくは発生した災害・応急対策が概ね終了したと認められる場合には、本部を廃止する。

本部を廃止した場合には、現地対策班にその旨を連絡する。

4 災害時の連絡体制

単位自主防災組織は情報連絡班のうち1人を中央公民館に配置することにより、地区連合防災組織の補助を行なうとともに相互の連絡を行う。

【連絡手段】

自転車、徒歩による伝令、簡易無線等による。

5 情報の収集・伝達

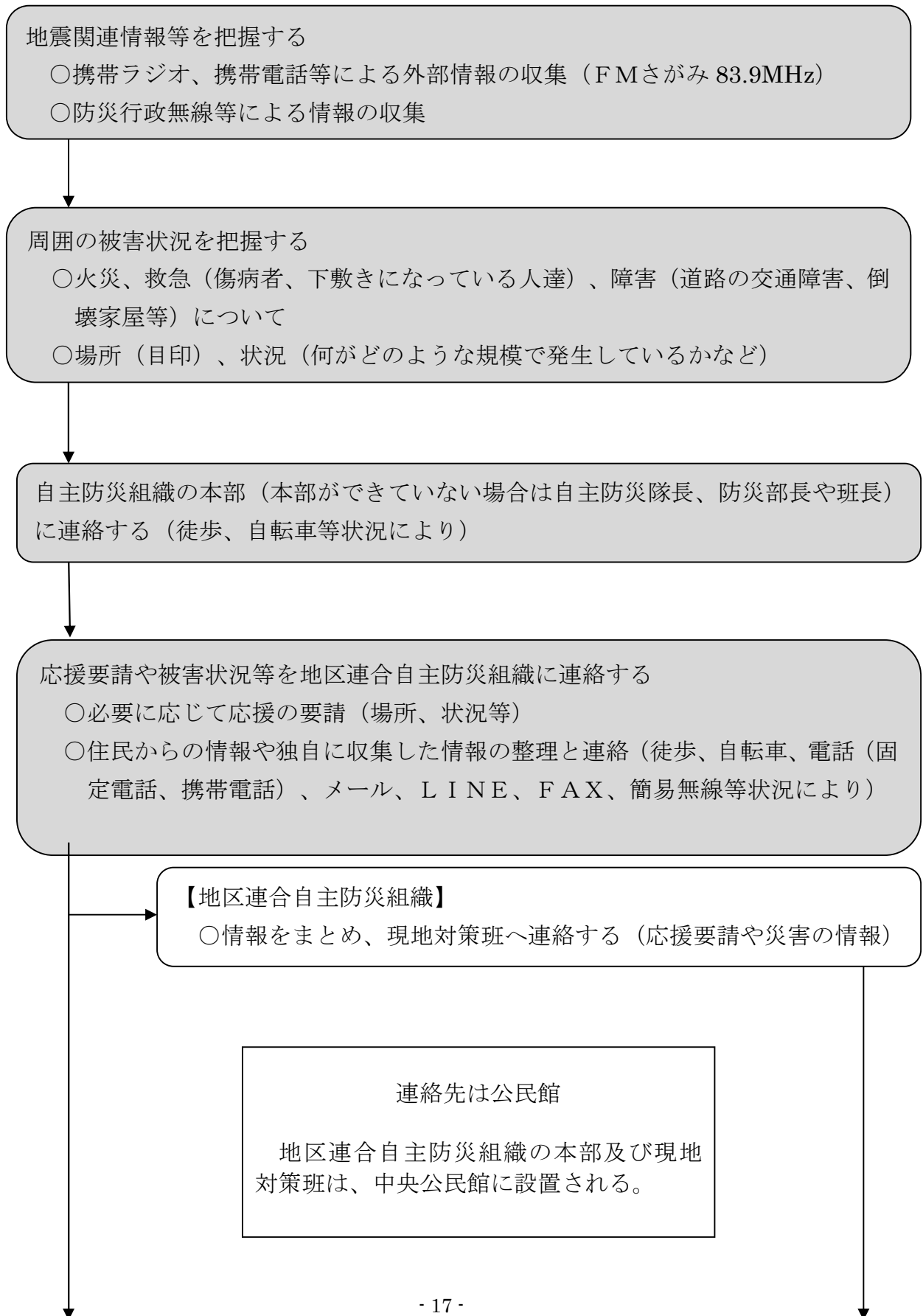
被害状況等を正確かつ迅速に把握し、適切な防災・応急措置を行うため、情報の収集・伝達を次により行う。

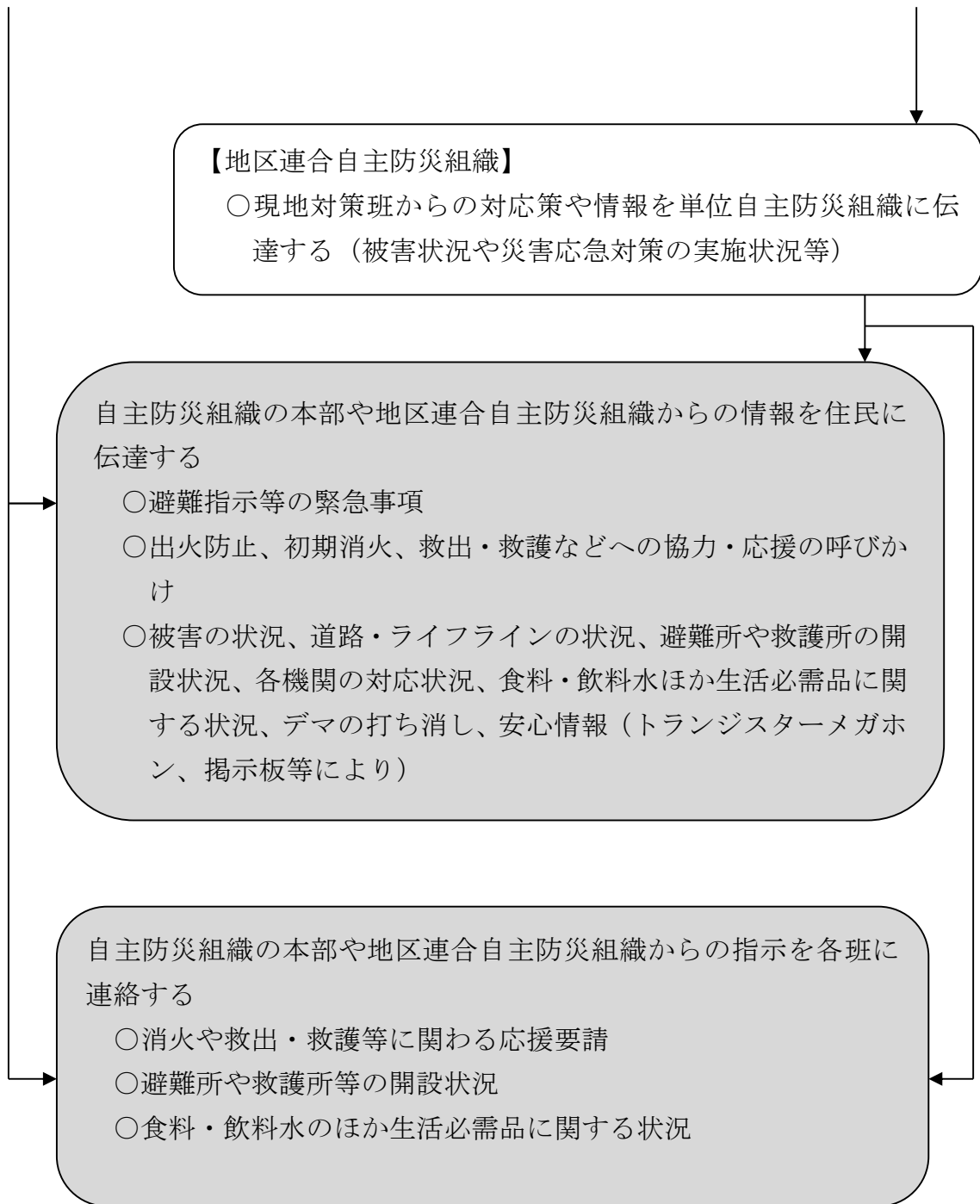
【情報の収集・伝達の方法】

テレビ、ラジオ（FMさがみなど）、電話（固定電話、携帯電話）、防災行政無線（ひばり放送）、FAX、インターネット（LINE、Facebook、ツイッターなど）、伝令、簡易無線等による。

情報は、簡潔明瞭が肝心であり、「いつ、どこで、なにが、（だれが）、どうして、どのように」の要領で情報を収集し、伝達する。

【情報収集・伝達活動の流れ】 単位自主防災組織





第2章 応急対策活動

1 水防活動、初期消火活動

(1) 水防活動

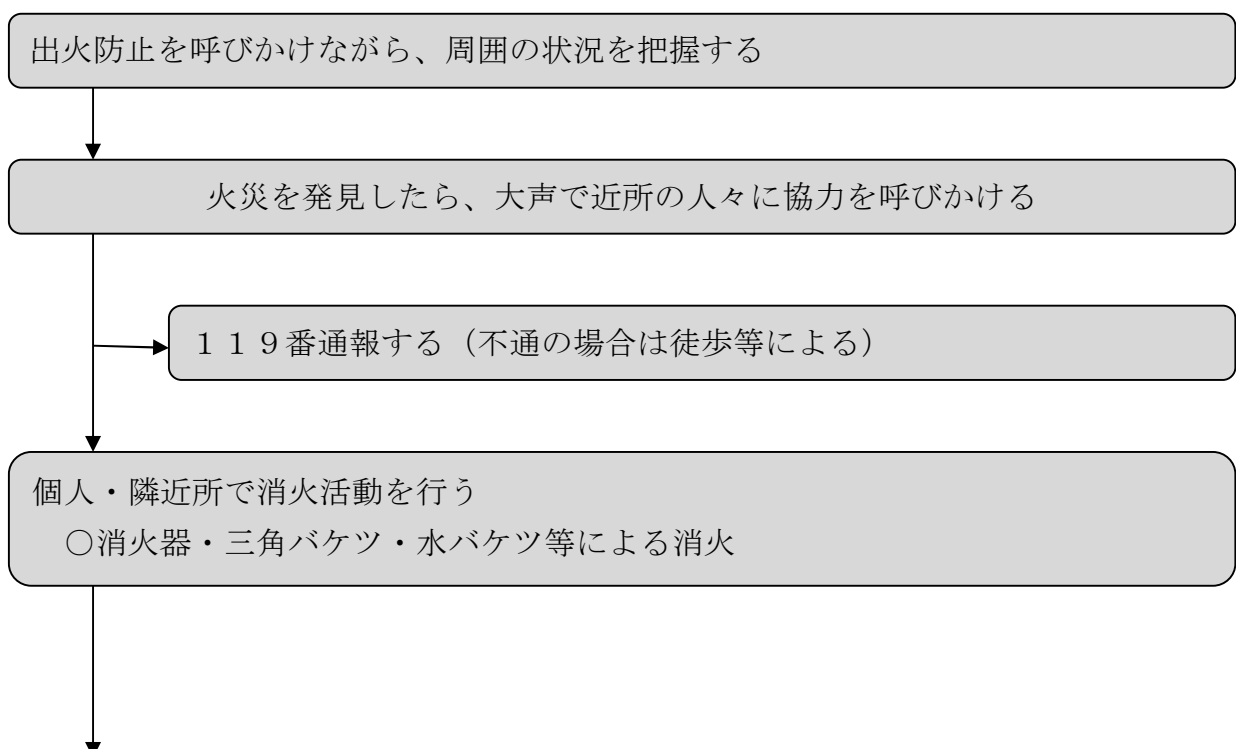
地区住民及び自主防災組織等は風水害時、雨量の増加による浸水（内水）が見込まれる場合には、浸水（内水）被害を防ぐため市及び各消防団等に協力するように努めるものとする。

(2) 初期消火活動

発災後、初期段階においては、地区住民及び自主防災組織等は自発的に初期消火活動を行うとともに、消防機関等に協力するよう努めるものとする。

なお、火災に際しては初期消火が特に重要になるため、自主防災組織等は各家庭に対して、火の元の始末など出火防止のための措置を講じるように呼びかけるとともに、火災が発生した場合、消火器、水バケツ、小型動力ポンプ等を活用し、隣近所が相互に協力して初期消火に努める。

【初期消火活動の流れ】 単位自主防災組織



組織的な消火活動に移行する

- バケツリレー等による消火用水の搬送
- 可能な限り多くの消火器を調達
- リーダーの指示による活動

地区連合自主防災組織に応援要請する

- 場所、状況等（徒歩、自転車、電話（固定電話、携帯電話）
メール、LINE、FAX、簡易無線等状況により）

【地区連合自主防災組織】

- 情報をまとめて、現地対策班へ連絡する
- 必要に応じ、単位自主防災組織へ応援出動を依頼し、事業所へ協力を求める（徒歩、自転車、電話（固定電話、携帯電話）、メール、LINE、FAX、簡易無線等状況により）

可能であれば、被害甚大地区の消火活動に協力する

危険性の少ない消火活動に協力する

- ホースの延長・撤収・運搬の手伝い
- 放水時の補助
- 消防職員・消防団員の指示による活動

消防団の活動に協力する

- 残火処理、現場の警戒活動等

2 救出・救護・搬送

(1) 救出・救護活動

建物の倒壊、落下物等により救出・救護を必要とする者が生じたときは、直ちに救出・救護活動を行う。この場合、現場付近の者は、救出・救護活動に積極的に協力する。

(2) 救出・救護活動等の原則

- ① 救出・救護活動は、救命処置を必要とする者を優先して行う。
- ② 救出・救護の事態が火災現場付近とそれ以外の場所にあった場合は、火災現場付近の救出・救護を優先して実施する。
- ③ 傷病者の救急搬送は、救命処置を必要とする者を優先して、救護所に搬送し、その他の傷病者は、消防団員、自主防災組織等の協力を得て、自主的な応急手当を行う。

(3) 医療的な配慮を要する者の搬送

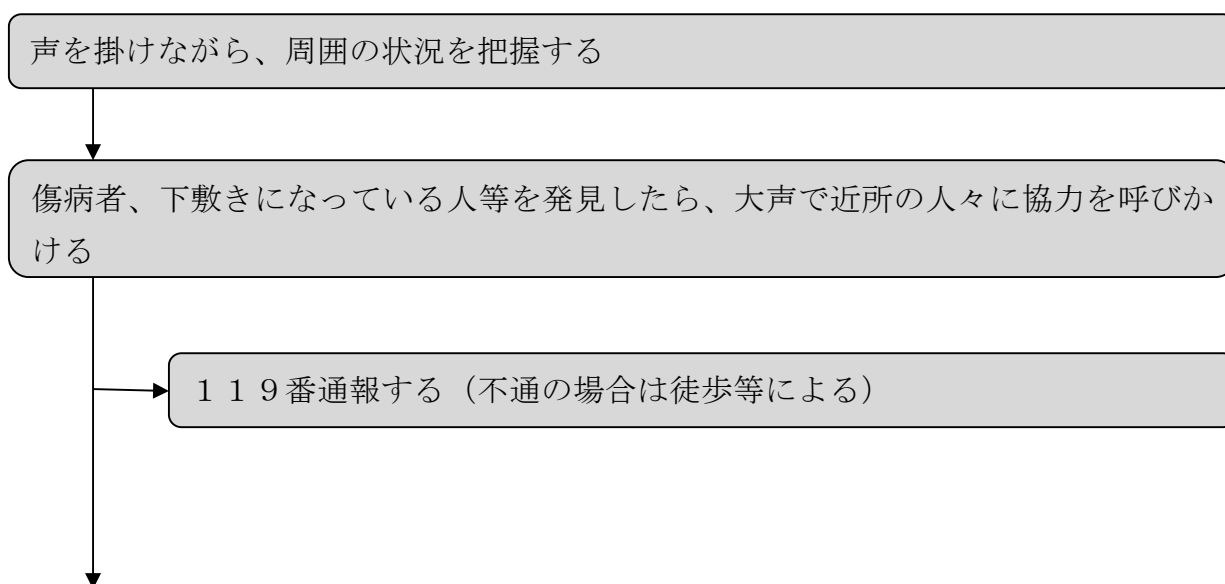
救出・救護班は、傷病者が医師の手当を必要とするとき、または避難所等から医療機関への搬送が必要とされる場合は、最寄の救護所への移動の指示、又は搬送を行い、救護所の指示に応じ、医療機関に搬送する。

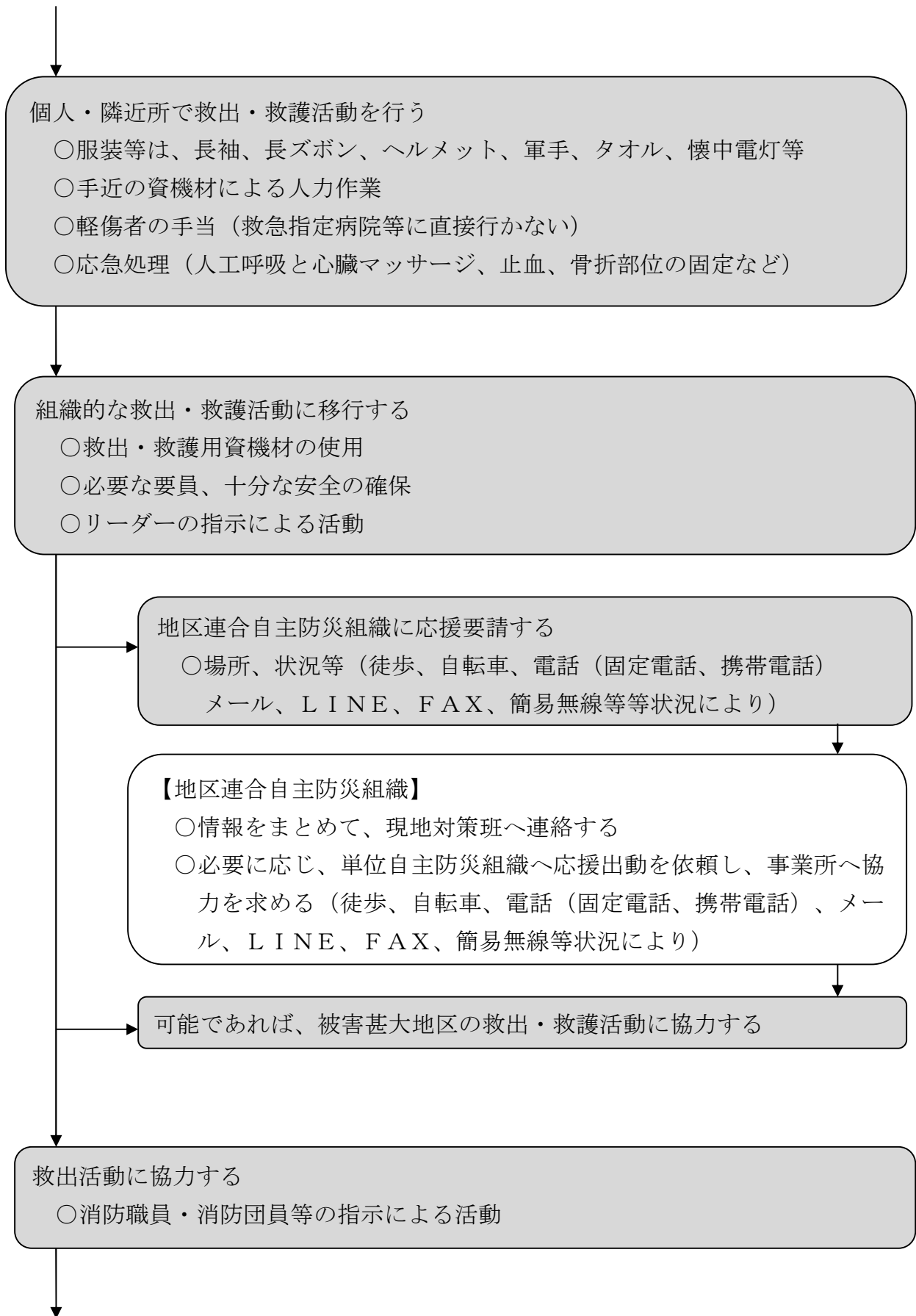
- ① 救護所 中央小学校
- ② 拠点救護所 相模原中央メディカルセンター

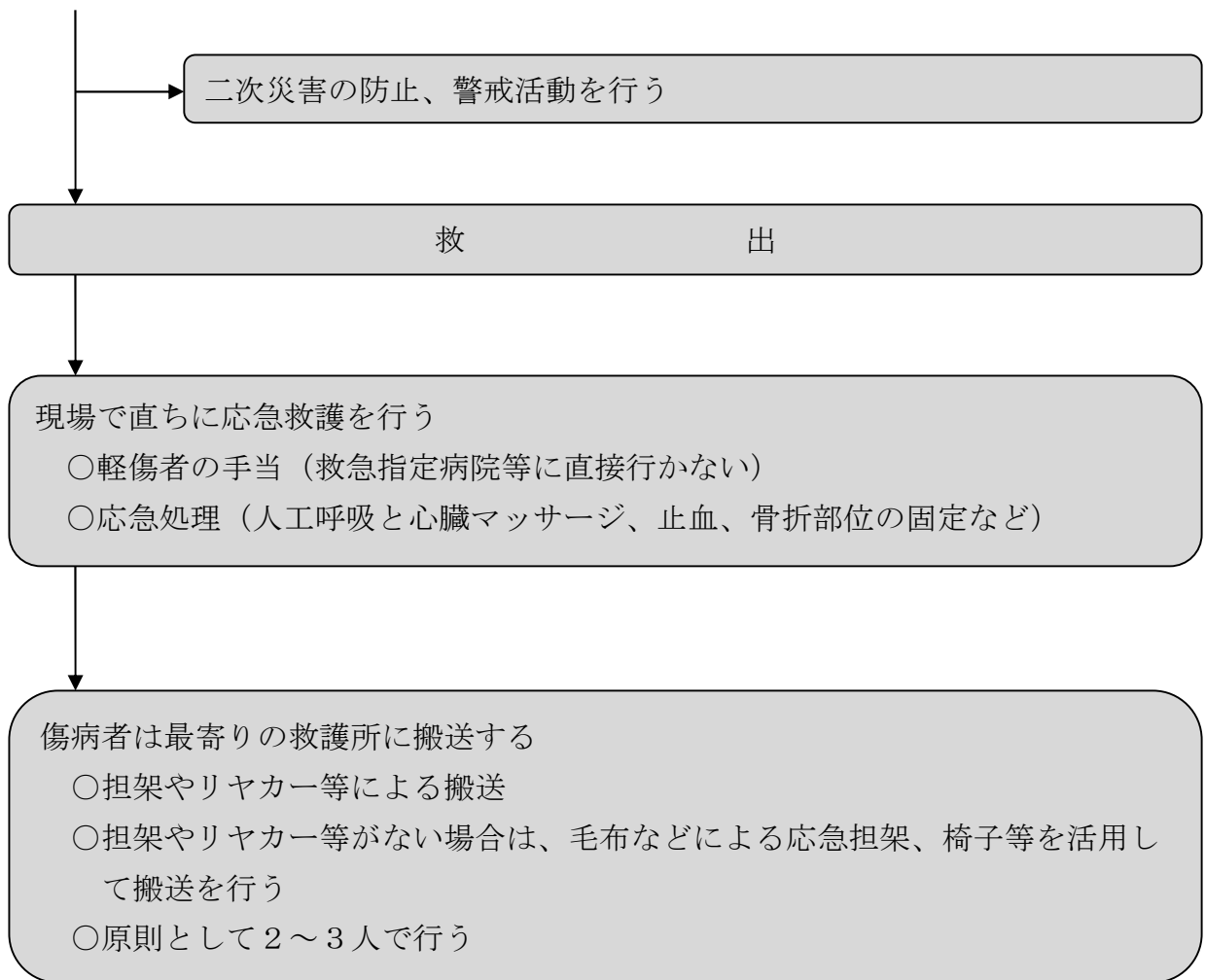
(4) 防災関係の出動要請

救出・救護班は、防災関係機関による救出が必要であると認めるときは、119番通報し、防災関係機関の出動を要請する。

【救出・救護活動の流れ】 単位自主防災組織







3 避難誘導

災害が発生し、又は発生のおそれがあり、人命に危険が生じ、又は生じる恐れがあるときは、区域内にいる全ての人に対して、次により避難を行う。

(1) 避難誘導の指示

市長から避難指示等が発令されたとき、又は地区防災組織の隊長等が避難の必要があると認めたとき、隊長等は避難誘導班に対し避難誘導の指示を行う。

(2) 避難誘導

避難誘導班員は、隊長等の避難誘導開始の指示を受けた時は、避難計画に基づき、住民を避難場所に誘導する。

(3) 避難所の管理・運営

災害時における避難所管理・運営については、相模原市避難所運営マニュアルのとおりとする。

(4) 避難経路及び避難場所

資料編 参照

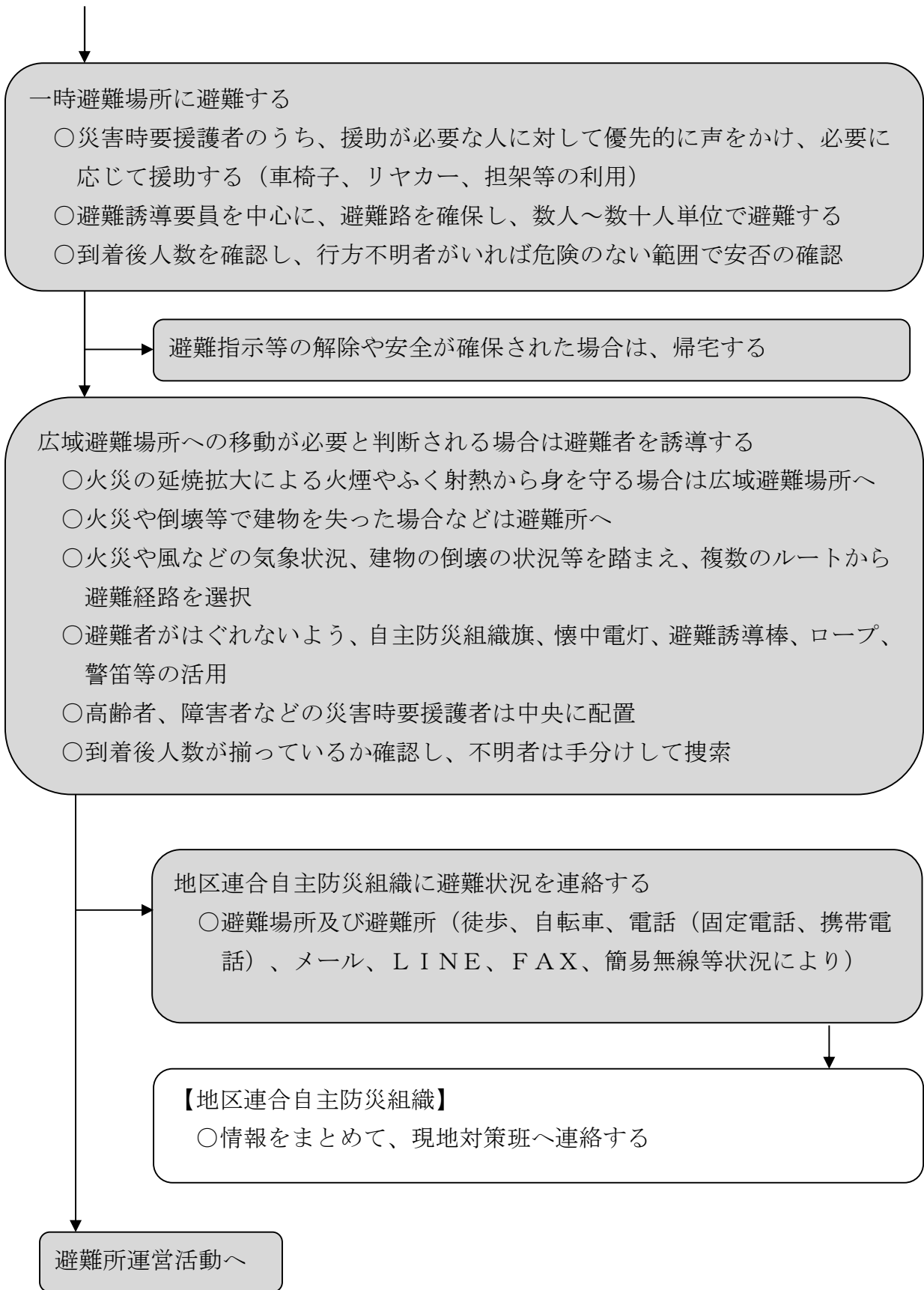
【避難誘導活動の流れ】 単位自主防災組織

自主的な避難判断を行う

- 火災の拡大、建築物の倒壊、地盤の崩壊等の被害発生の危険性がある場合
- ひばり放送、ラジオや周囲の状況などから判断

周辺住民への周知徹底を図り、避難時の注意事項を伝達する（トランジスターメガホン等により）

- 発令者・避難対象地域・避難先・避難経路・避難の勧告または指示の理由等
- 各自治会が選定している一時避難場所の周知
- ガス元栓の閉鎖、電気ブレーカーの切断
- 携帯品は、食料、薬、日用品、衣類、貴重品等、必要最小限の生活用品のみ
- 服装は、長袖、長ズボン、ヘルメット、軍手、タオル、懐中電灯等
- 外出時の家族には連絡メモ



4 災害時要援護者対策

災害時において、高齢者、障害者その他の特に配慮を要する者など、災害時要援護者に対して、地区住民及び関係機関等の協力を得て、効果的な応急対策を総合的かつ優先的に行うものとする。

(1) 災害発生時の対応

災害発生後概ね3日間を目途に、災害時要援護者の安否確認や避難支援等の支援活動を積極的に行うこととする。

なお、地区内における単位自治会などを中心とした災害時要援護者への支援活動については「相模原市災害時要援護者避難支援ガイドライン」を参考に行うこととする。

(2) 情報収集

大規模災害が発生した場合、支援組織は安全が確保される範囲内において、支援台帳等をもとに災害時要援護者宅の個別訪問など、主体的に安否確認を行い、地区内支援組織間での情報を共有するとともに本部に報告する。

なお、地区内における単位自治会などを中心とした災害時要援護者への支援活動については「相模原市災害時要援護者避難支援ガイドライン」を参考に行うこととする。

(3) 避難誘導

発災後の避難誘導方法及び災害時要援護者別状況の対応については「相模原市災害時要援護者避難支援ガイドライン」を参考に行うこととし、避難経路、避難場所については、安全を確認の上、指定された場所等に速やかに誘導することとする。

【災害時要援護者支援活動の流れ】

災害時要援護者が在宅する家屋等を巡回し、安否の確認を行う

【高齢者】

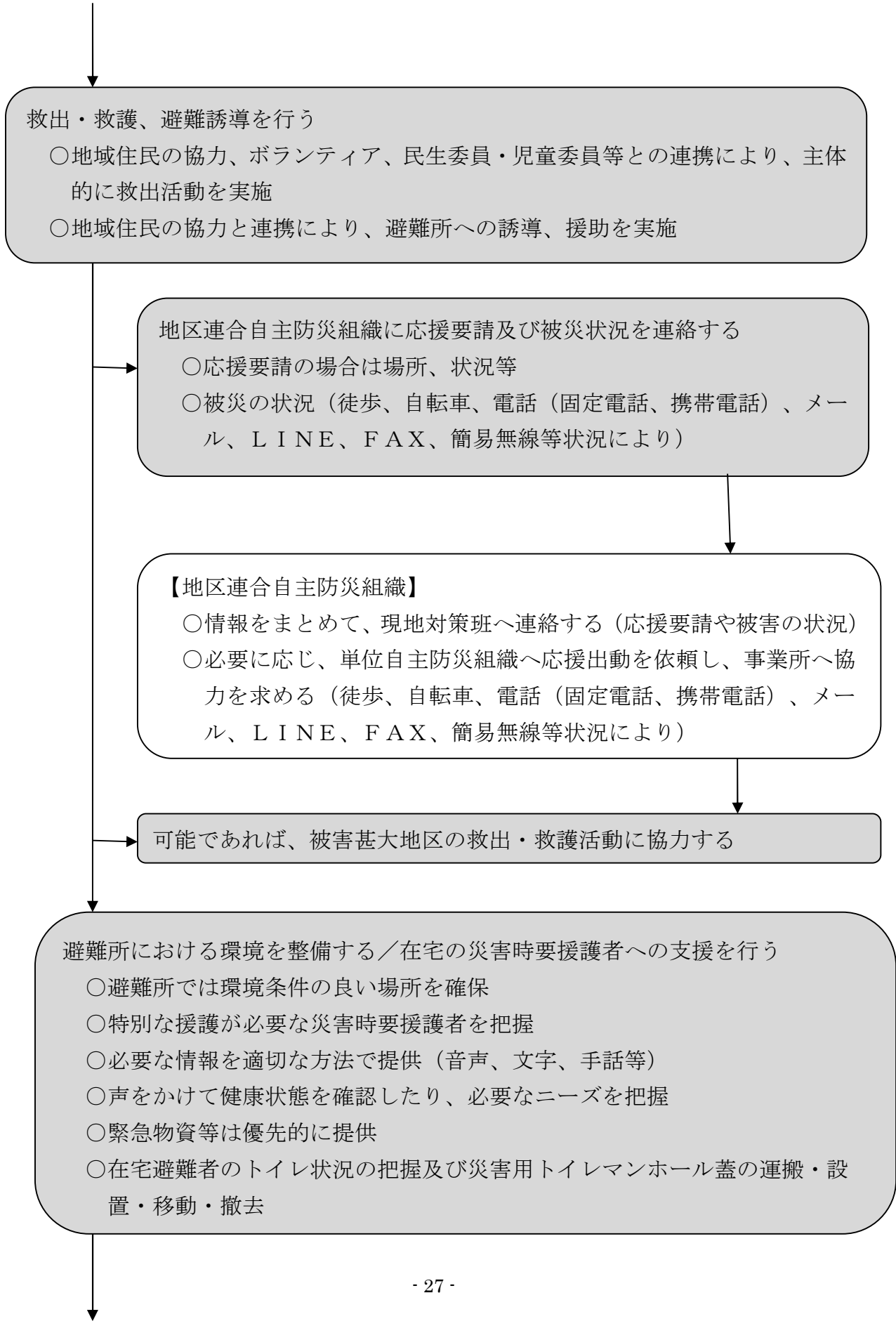
○民生委員と協力し、所在情報をもとに、主体的に確認

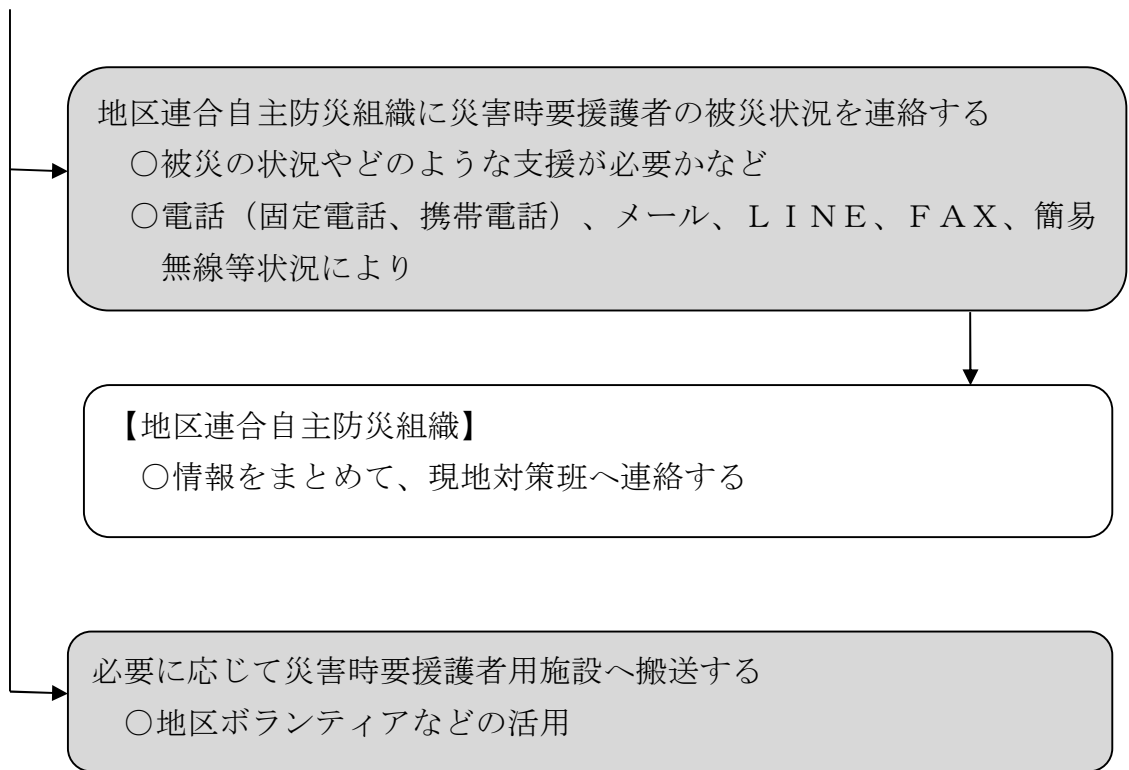
【身体障害者・知的障害者】

○民生委員・主任児童委員や関係団体等の協力を得て、戸別訪問、電話等により確認

【保護者と離れてしまった乳幼児等】

○災害時要援護者支援班を中心に把握





5 住民の安否確認

地区内の自主防災組織等は、救出・救護班及び避難誘導班等による現地対策チームを編成し、居住者への声掛けなど、現地確認を実施する。

また、現地確認により、収集した情報を避難所運営本部及び現地対策班と共有し、避難者名簿と突合するなどして情報を集約する。

6 在宅避難者の把握・支援

地区内の自主防災組織等は、上記の方法により集約した情報を基に必要に応じて在宅避難者の支援を行う。

7 車中泊等の避難所外避難者への対応

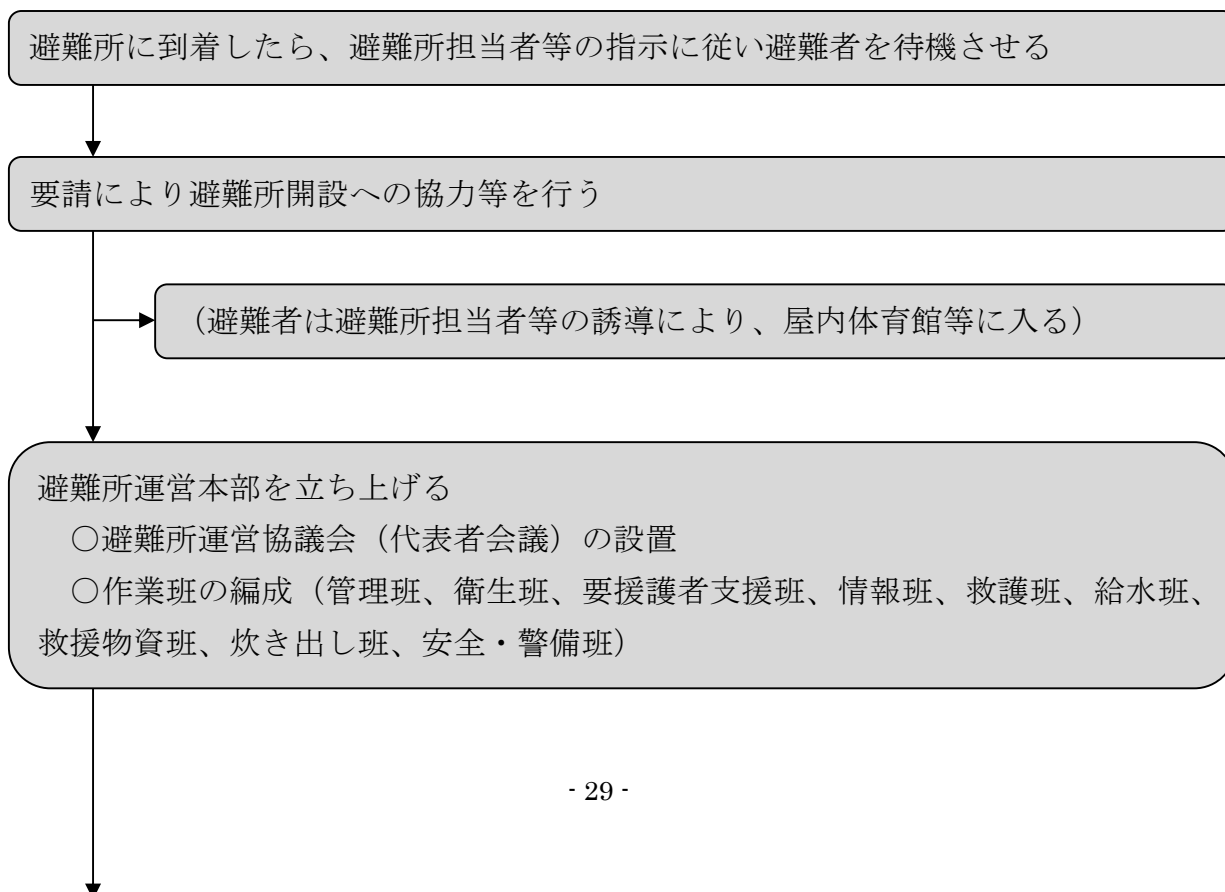
避難については、親戚宅等や避難所を原則とするが、感染症対策の観点からやむを得ず車中泊等を選ぶ避難者については、在宅避難者名簿に登録を行うよう依頼する。

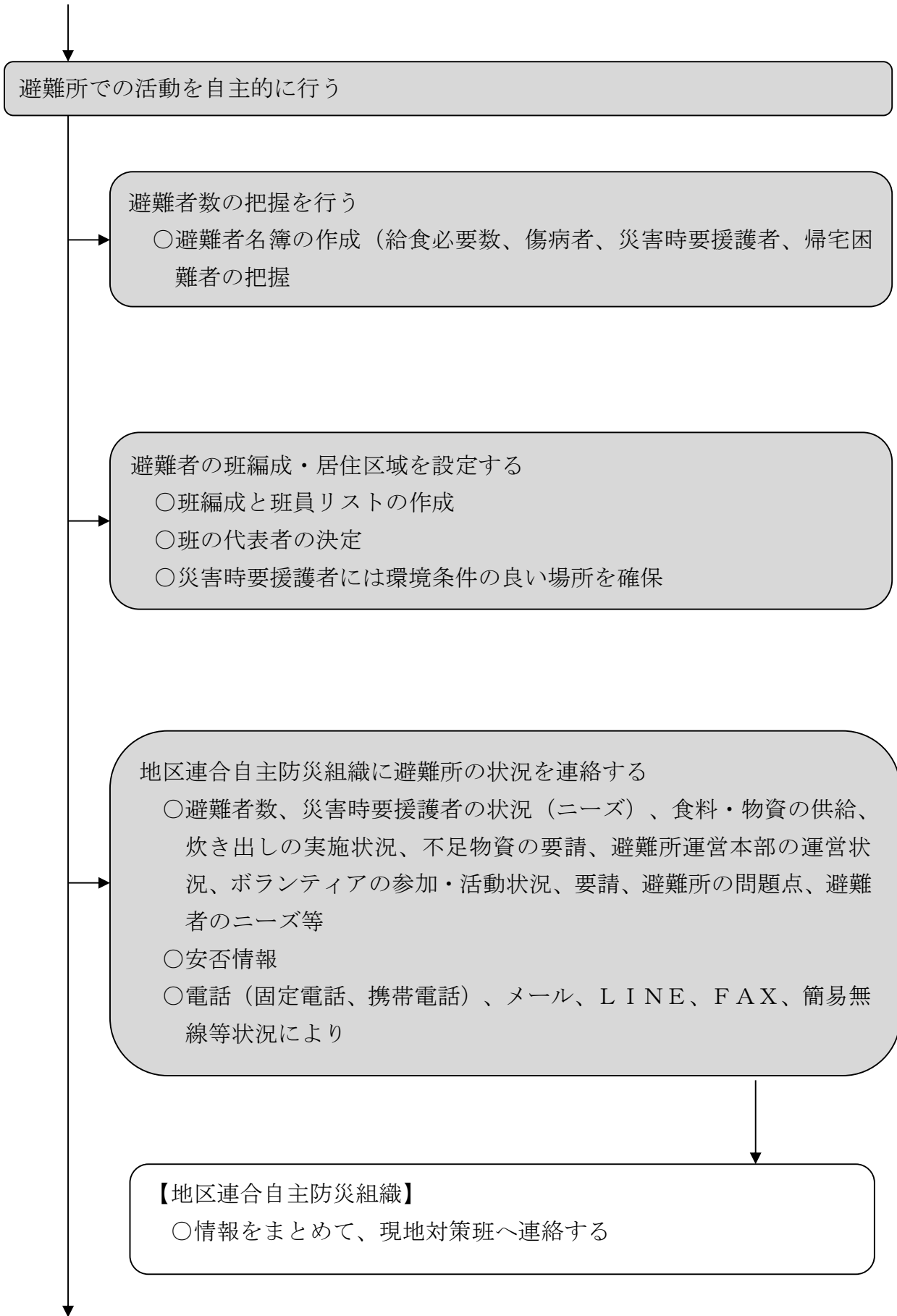
また、エコノミークラス症候群の健康管理に係る注意喚起を行う。

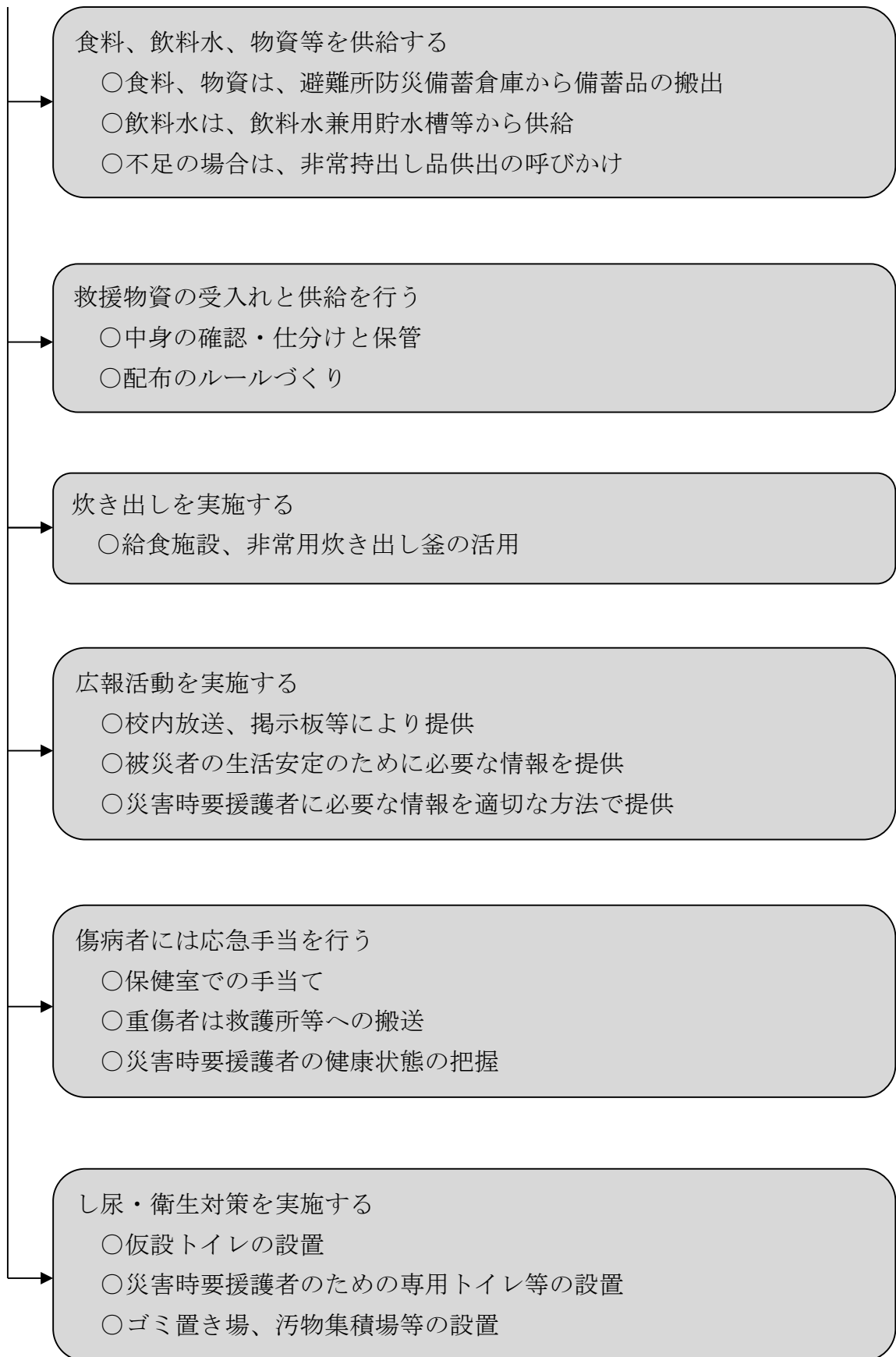
8 避難所運営

避難所運営については、「相模原市避難所運営マニュアル」に基づき、避難所運営協議会が中心となって、避難所運営を行うこととする。

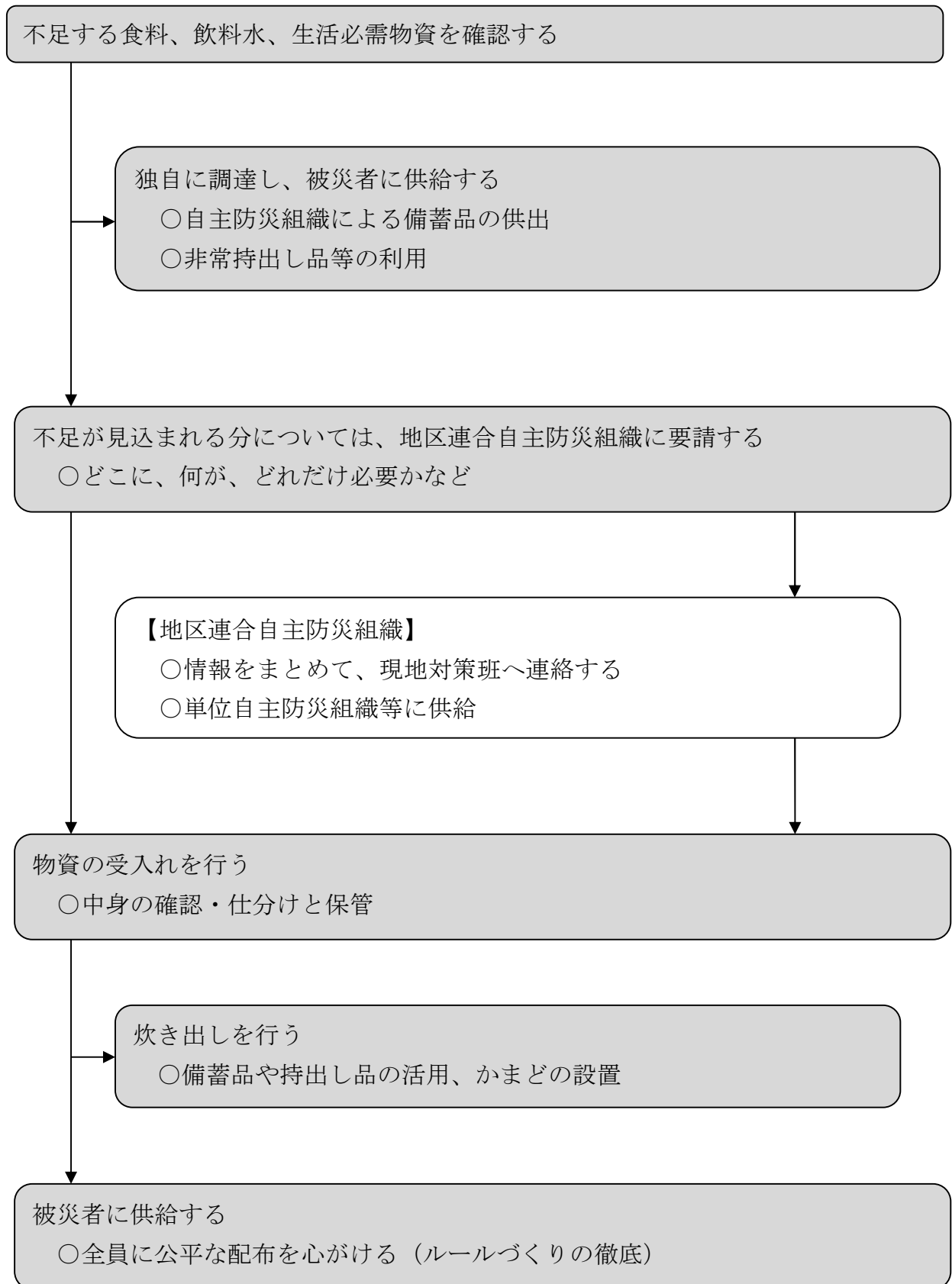
【避難所運営活動の流れ・概ね1週間を目安として】単位自主防災組織







【給食・給水活動の流れ】 単位自主防災組織



9 多様な視点に基づいた避難所等の運営

避難所等には、障害のある方や慢性疾患、アレルギー等の個人的な事情を抱えた方のほか、乳児院や性的少数者など様々な方が利用します。こうした方々に対し可能な限り配慮しながら、多様な視点に基づいた避難所等の運営を行う。

10 ボランティアの活動について

災害時におけるボランティア活動については、中央ボランティアセンター、現地対策班等と連絡調整を行い、以下の各種活動分野に対して、必要に応じて支援を要請することとする。

(1) 専門ボランティアの活動分野

- ア 医療看護（医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、柔道整復師等）
- イ 福祉（手話通話、介護士）
- ウ 無線（アマチュア無線技士、タクシー無線）
- エ 特殊車両操作（大型重機等操作資格者）
- オ 通訳（外国語通訳）
- カ 被災建築物の応急危険度判定（応急危険度判定士）
- キ 相談業務（弁護士、会計士、カウンセラー等）
- ク その他専門知識や技能を必要とする分野

(2) 生活支援ボランティアの活動分野

- ア 救援物資の整理、仕分け、配分
- イ 避難所の運営補助
- ウ 救護所の運営補助
- エ 清掃
- オ 災害時要援護者等の生活支援
- カ 広報資料の作成
- キ その他危険のない作業

※ 防犯の観点から、避難所へ直接来るボランティアの受け入れはしない。必ずボランティアセンターで登録をするようにお願いする。

中央ボランティアセンター（あじさい会館4階）	平常時
住所 〒252-0236 神奈川県相模原市中央区富士見 6-1-20	
電話：042-786-6181	
FAX：042-786-6182	

1.1 他組織との連携

防災訓練や災害時の応急活動については、他の地区防災組織や災害ボランティア等と連携を図るものとする。

<p>他の自主防災組織との連携強化する</p>	<p>単位自主防災組織を超えた連携として、地区連合自主防災組織があるが、その他、以下のような連携づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○隣接する自主防災組織との連携（小規模な組織での合同訓練の実施等） ○地区連合自主防災組織間の連携・協力応援体制
<p>市の支援体制を活用する</p>	<p>自主防災組織は、防災の専門家や関係機関の指導、助言を必要とする面もある。各種訓練の実施や日常活動を効果的に進めるためには、行政機関や防災関係機関との協力関係が必要である。</p> <p>毎年、「自主防災組織変更届出書」を中央6地区まちづくりセンターに提出し、自主防災訓練、研修会、事業所訓練を実施するため「防災訓練等実施申請書」や「消防訓練等実施申請書」を受持ちの消防署所に提出することによって、様々な市からの支援が受けられる体制となっている。</p>
<p>事業所との協力関係を構築する</p>	<p>平日の昼間への対応として、地域にある事業所と協力関係を構築しておくことは有効な手段である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平常時の連携づくり <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の自主防災組織への参加促進 ・事業所の防災訓練への参加促進 ○災害時における協力関係の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で編成する自衛消防隊の初動期での周辺地域への応援 ・事業所で保有する重機・機器及び関係施設の活用 ○市の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所への意識啓発 ・協力関係構築に関する指導
<p>避難所運営を念頭においた協力体制をつくる</p>	<p>避難所の運営は、避難者や自主防災組織が中心に行うことになるが、避難所の運営を円滑に行うため、平常時から、同一避難所に避難する単位自主防災組織相互、校長等及び避難所担当市職員とそれぞれの役割、業務内容などについて理解を深める協議の場を設けるとともに、実践的な避難所運営訓練を行うことが必要である。</p> <p>特に、単位自主防災組織の避難所運営班は、避難所運営本部の立ち上げを行うとともに、運営本部内に組織される各作業班に加わり、具体的な運営管理を行う。</p>
<p>協力を依頼する人達との取り決めを行う</p>	<p>医療関係従事者、民生委員・児童委員、建設業関係従事者、大型建設機械の操作技術者、その他の特殊技能者、アマチュア無線や手話通訳、救急救命士、応急危険度判定士等の資格取得者、ボランティア活動の希望者など、災害時に協力を依頼することが考えられる人、特に地域に在住・在勤している人達と災害時の協力・応援に関する取り決めを結んでおくことは、いざというときに非常に役に立つ。</p>

1.2 南海トラフ地震臨時情報の内容に応じた防災対応

南海トラフ地震臨時情報が発表され、事前の準備行動等を行う必要があると認められた場合には、後発地震の発生に備えた事前避難対策等を実施する。

(1) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）

南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8以上の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合には、最初の地震発生から1週間を基本に次の対応を行う。

ア 日ごろからの地震への備えを再確認する。

イ 地震発生後の避難では明らかに避難が完了できない災害時要援護者等は、避難を開始し、それ以外の者は避難準備を整え、状況に応じて避難する。

ウ 2週間経過後は、地震の発生の可能性がなくなったわけではないことに留意し、通常の生活に戻る。

(2) 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）

南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM7以上、M8未満の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合には、最初の地震発生から1週間を基本に次の対応を行う。

ア 日ごろからの地震への備えを再確認する。

イ 1週間経過後は、地震の発生の可能性がなくなったわけではないことに留意し、通常の生活に戻る。

(3) 後発地震に備えた事前避難

ア 住民の避難は、親戚・知人宅等への避難が基本であること。

イ 食料や生活用品などは避難者が準備することが基本であること。

ウ 日ごろからの地震への備えを再確認する。

4 資 料 編

- ※ 地区の避難場所・避難所
- ※ 地区別防災カルテ

中央地区の避難場所・避難所

・ 一時避難場所

地域の避難場所として自治会が指定する近くの公園や空き地など

災害発生後、一時的に災害の推移を見守ったり、避難時に集合する場所となる。

(令和3年度)

	自治会エリア等	一時避難場所	所在地
1	相模原5丁目	※	
2	東第三	東町連合自治会館	相模原6-13-8
		こまどり公園	相模原6-16
3	中央二丁目	中央小学校	富士見1-3-22
4	中央三丁目	市民会館前広場	中央3-13-15
5	中央6丁目	中央小学校	富士見1-3-22
6	千代田1丁目	まちみどり公社駐車場	千代田1-1-8
		中央小学校	富士見1-3-22
7	矢部第四	むらとみ公園	矢部2-7
8	矢部第一	むらとみ公園	矢部2-7
9	新興	矢部公園	矢部4-20-15
10	矢部第二	矢部ふれあい広場	矢部4-14
11	イニシア矢部駅前	イニシア矢部駅前公開空地	矢部3-18-9
12	富栄町	矢部公園	矢部4-20-15
13	五十和	富士見二丁目公園	富士見2-1
14	相模原パークハイツ	中央中学校	富士見1-3-17
15	みとみ町	富士見小学校	富士見2-4-1
		中央中学校	富士見1-3-7
		中央公民館	富士見2-13-1
16	富士見同人会	相生公園	富士見3-13
17	富士見3丁目	相生公園	富士見3-13
18	富士見四丁目	富士見公園	富士見4-1
19	富士見町	富士見公園	富士見4-1
20	富士見一	富士見団地1号棟横駐車場	富士見5-6-1
21	富士見団地	富士見団地自治会中庭	富士見5-6-2
22	あじさい第4	4号棟の庭広場	富士見5-6-4
23	中央第一	集会所横広場	富士見5-20
24	中央第二	雨水調整地(子供広場)	富士見5-6

25	富士見若葉	富士見公園	富士見4-1
		富士見小学校	富士見2-4-1
26	富士見6丁目	中央小学校	富士見1-3-22
27	モアステージ相模原富士見	中央小学校	富士見1-3-22
28	相生	相生東公園	相生2-7
29	相生三丁目	栄公園	弥栄2-2
30	相生四丁目	栄公園	弥栄2-2
31	栄	栄公園	弥栄2-2
32	高根二丁目	緑の森子どもの広場	高根2-7
33	弥栄	弥栄児童館	弥栄1-7-18
		栄公園	弥栄2-2
34	松が丘	淵野辺公園	弥栄3-1-6

※自治会がないエリアのため一時避難場所の指定はありません。当該エリアにお住まいの方は災害時、自分が一番安全だと思う場所（空地、小公園、学校など）に避難してください。

・ 風水害時等における避難場所

風水害時等における災害危険から一時的に逃れるために避難する場所

中央公民館 富士見2-13-1

・ 広域避難場所

市が指定する大きな公園や学校など。

延焼火災などで、地域内で身の安全が確保できない場合に避難する場所。

（延焼火災による輻射熱や大量の煙から、身を守る。）

近隣の広域避難場所

（令和3年12月現在）

広域避難場所(概ねの避難対象地区)	所在地	総面積(m ²)
在日米陸軍相模総合補給廠野積場 (相模原、中央2・3丁目、矢部1・2丁目)	すすきの町16番	366,000
淵野辺公園一帯 (相生、高根、富士見、松が丘、弥栄)	高根3丁目、弥栄3丁目、由野台3丁目	660,000
鹿沼公園(矢部3・4丁目)	鹿沼台2丁目	59,160
横山公園・上溝中学校 (中央6丁目、千代田1丁目)	横山5丁目	203,700

風向きを考慮して避難する場所を決めること。

・ 避難所

多くの人数を収容でき、長期間避難生活ができる場所。

被災者を受入れ、避難生活の場になるとともに、地域の配給、給水の場となる。

(令和3年12月現在)

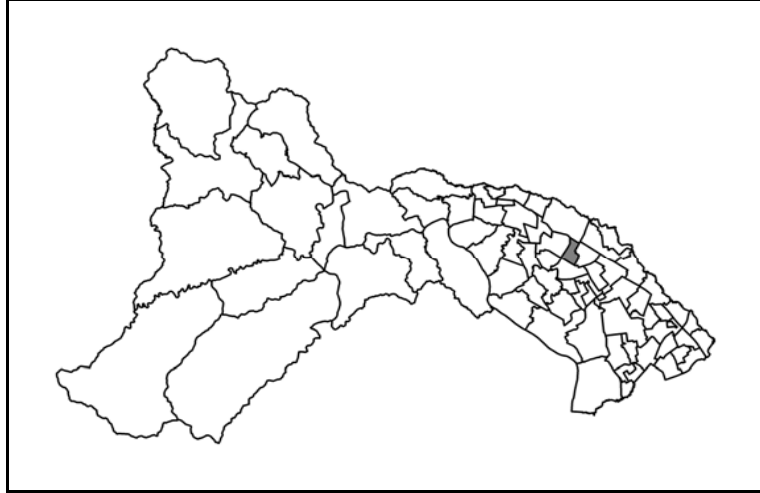
	自治会エリア等	避難所	所在地
1	相模原5丁目	中央小学校	富士見1丁目3-22
2	東第三		
3	中央二丁目		
4	中央三丁目		
5	中央6丁目		
6	千代田1丁目		
7	矢部第四		
8	矢部第一	中央中学校	富士見1-3-17
9	新興	富士見小学校	富士見2-4-1
10	矢部第二		
11	イニシア矢部駅前		
12	富栄町		
13	五十和		
14	相模原パークハイツ	中央中学校	富士見1-3-17
15	みとみ町	富士見小学校	富士見2-4-1
16	富士見同人会		
17	富士見3丁目		
18	富士見四丁目		
19	富士見町		
20	富士見一		
21	富士見団地		
22	あじさい第4		
23	中央第一		
24	中央第二		
25	富士見若葉		
26	富士見6丁目	中央小学校	富士見1-3-22

27	モアステージ 相模原富士見	中央小学校	富士見1-3-22
28	相生	弥栄小学校	弥栄3-1-10
29	相生三丁目		
30	相生四丁目		
31	栄	弥栄中学校	弥栄3-1-7
32	高根二丁目		
33	弥栄		
34	松が丘	由野台中学校	由野台3-1-3

○地区を構成する町丁

【中央区】相模原5丁目・6丁目、中央2丁目・3丁目・6丁目、千代田1丁目、富士見1丁目・6丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

中央(東第二,東第三,中央二丁目,中央三丁目,中央6丁目,千代田1丁目,富士見6丁目,モアステージ相模原富士見,五十和)

○地区概況

台地(上段)にあり、国道16号が地区のほぼ中央をやや斜めに横断する。北部と南部は主に住宅地、国道16号沿いには商業施設、業務施設が、その南側は主に公共施設が多い。北東をJR横浜線が通る。

○建物数・人口

建物	区分		建物(棟数)
	区分	棟数	
建物	木造(昭和55年以前)	351 棟	
	木造(昭和56年以降)	493 棟	
	非木造(昭和55年以前)	108 棟	
	非木造(昭和56年以降)	493 棟	
	合計	1,445 棟	
人口	区分		人口(人)
	区分	人口	
人口	0~4歳	346 人	
	5~64歳	7,328 人	
	65歳以上	1,636 人	
	合計	9,310 人	

○所見

- ・幹線道路は広く、沿道の不燃化が進んでいるところが多い。
- ・公共施設、商業施設、業務施設が多数あり、利用者など昼間人口が多い。
- ・富士山の大規模噴火時には2~30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	相模原市役所, 中央区役所, けやき会館, 相模原市民会館, 総合学習センター, さがみはら市民活動サポートセンター, 環境情報センター, 相模原教育会館, 青少年相談センター, あじさい会館, ウェルネスさがみはら, 産業会館
警察署	相模原警察署
消防署	相模原市消防局, 相模原消防署
消防団詰所	女性分団
病院等	相模原中央病院, 相模原中央メディカルセンター
主な災害時要援護者施設	太陽の村 放課後クラブ 中央事業所, ねばーらんど相模原, ホープ, ムート相模原, レストヴィラ相模原中央, サニーデイ, コパン, グループホーム憩, キッチンハウス中央
幼稚園、保育園	星ヶ丘二葉園 分園
学校、大学	中央小学校, 中央中学校
避難所 ※洪水時避難所兼用	中央中学校, 中央小学校
洪水時避難所	
広域避難場所	
防災備蓄倉庫 ※広域避難場所対応	消防本部防災倉庫, 中央小学校, 中央中学校
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

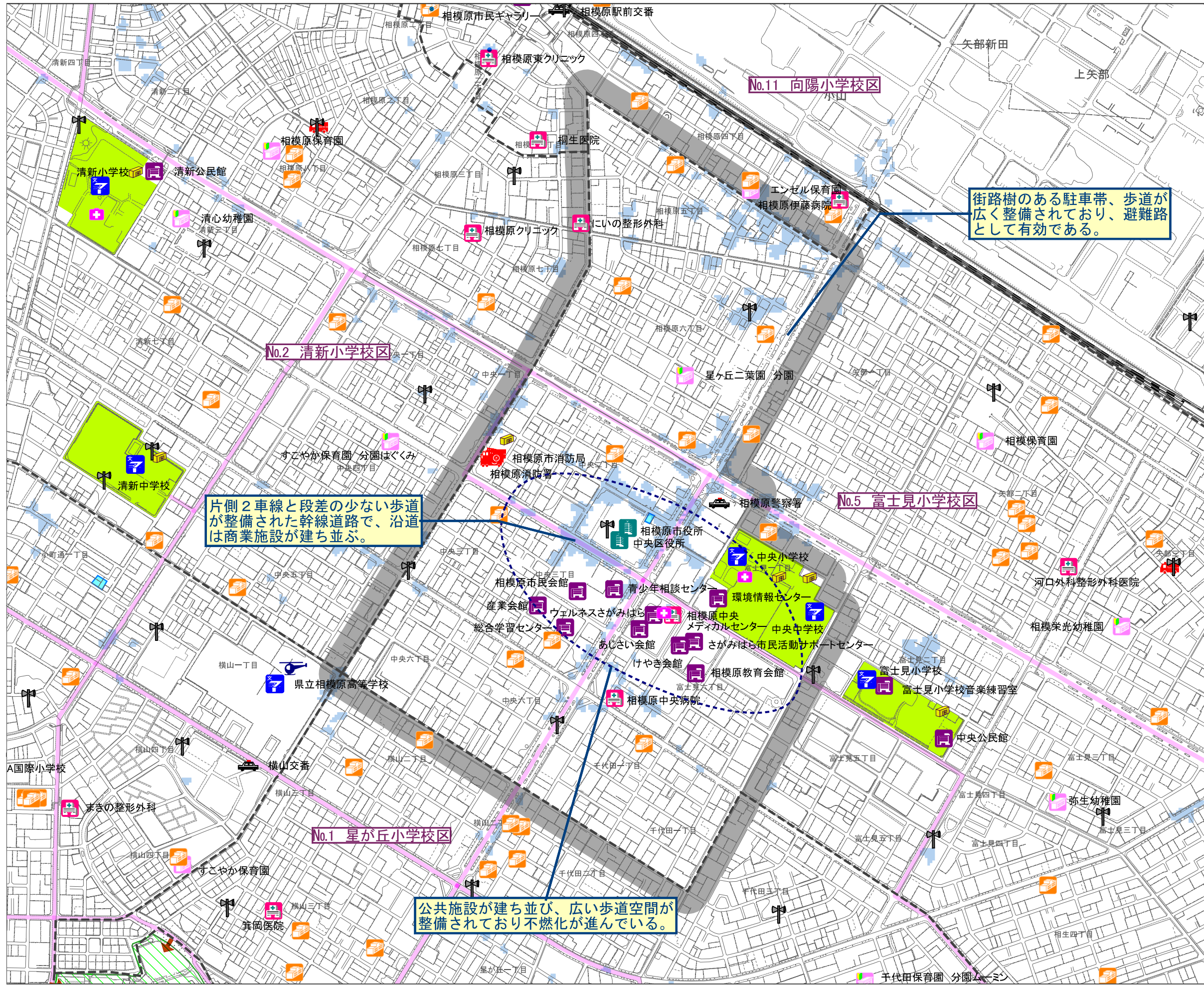
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	72 棟	5.0 %	31 棟	2.1 %	7 棟	0.5 %
建物焼失	4 棟	0.2 %	1 棟	0.0 %	0 棟	0.0 %
死者	4 人	0.0 %	2 人	0.0 %	0 人	0.0 %
閉込者	35 人	0.4 %	15 人	0.2 %	4 人	0.0 %
重傷者	6 人	0.1 %	3 人	0.0 %	1 人	0.0 %
軽傷者	38 人	0.4 %	25 人	0.3 %	12 人	0.1 %
避難所避難者(当日)	261 人	2.8 %	128 人	1.4 %	44 人	0.5 %
避難所避難者(1週間後)	850 人	9.1 %	624 人	6.7 %	364 人	3.9 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害	
地震による地盤災害	
地震による建物被害、火災	

○近年の主な災害履歴

なし



凡例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設 幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

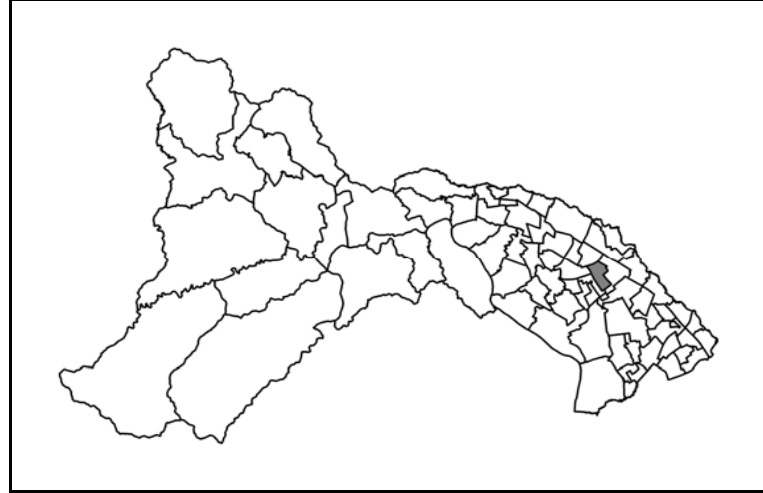
みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)



○地区を構成する町丁

【中央区】相生、高根2丁目、弥栄

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

中央(相生, 相生三丁目, 相生四丁目, 栄, 高根二丁目, 弥栄)

○地区概況

台地(上段)にあり、国道16号が地区の北東端に接する。北部は主に住宅地であり、国道16号沿いには商業施設が建ち並ぶ。南部には、小学校、中学校、淵野辺公園があり、広域避難場所になっている。

○建物数・人口

建物		区分		建物(棟数)
建物	木造(昭和55年以前)	653棟		
	木造(昭和56年以降)	1,202棟		
	非木造(昭和55年以前)	112棟		
	非木造(昭和56年以降)	466棟		
	合計	2,433棟		

人口		区分		人口(人)
人口	0~4歳	370人		
	5~64歳	6,884人		
	65歳以上	2,324人		
	合計	9,578人		

○所見

- ・広域避難場所に連絡する道路は幅が広く、避難路として有効である。
- ・富士山の大規模噴火時には2~30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	
警察署	相生交番
消防署	
消防団詰所	
病院等	
主な災害時要援護者施設	ベストライフ相模原, 社会福祉法人相模福祉村ケアホームⅢ, ウディーショップ きこり
幼稚園、保育園	
学校、大学	弥栄小学校, 弥栄中学校, 県立弥栄高等学校
避難所 ※洪水時避難所兼用	弥栄中学校, 弥栄小学校
洪水時避難所	
広域避難場所	淵野辺公園一帯
防災備蓄倉庫 ※広域避難場所対応	※相模原球場防災倉庫・淵野辺公園一帯, 弥栄小学校, 弥栄中学校
臨時ヘリポート	県立弥栄高等学校

○地震被害予測結果

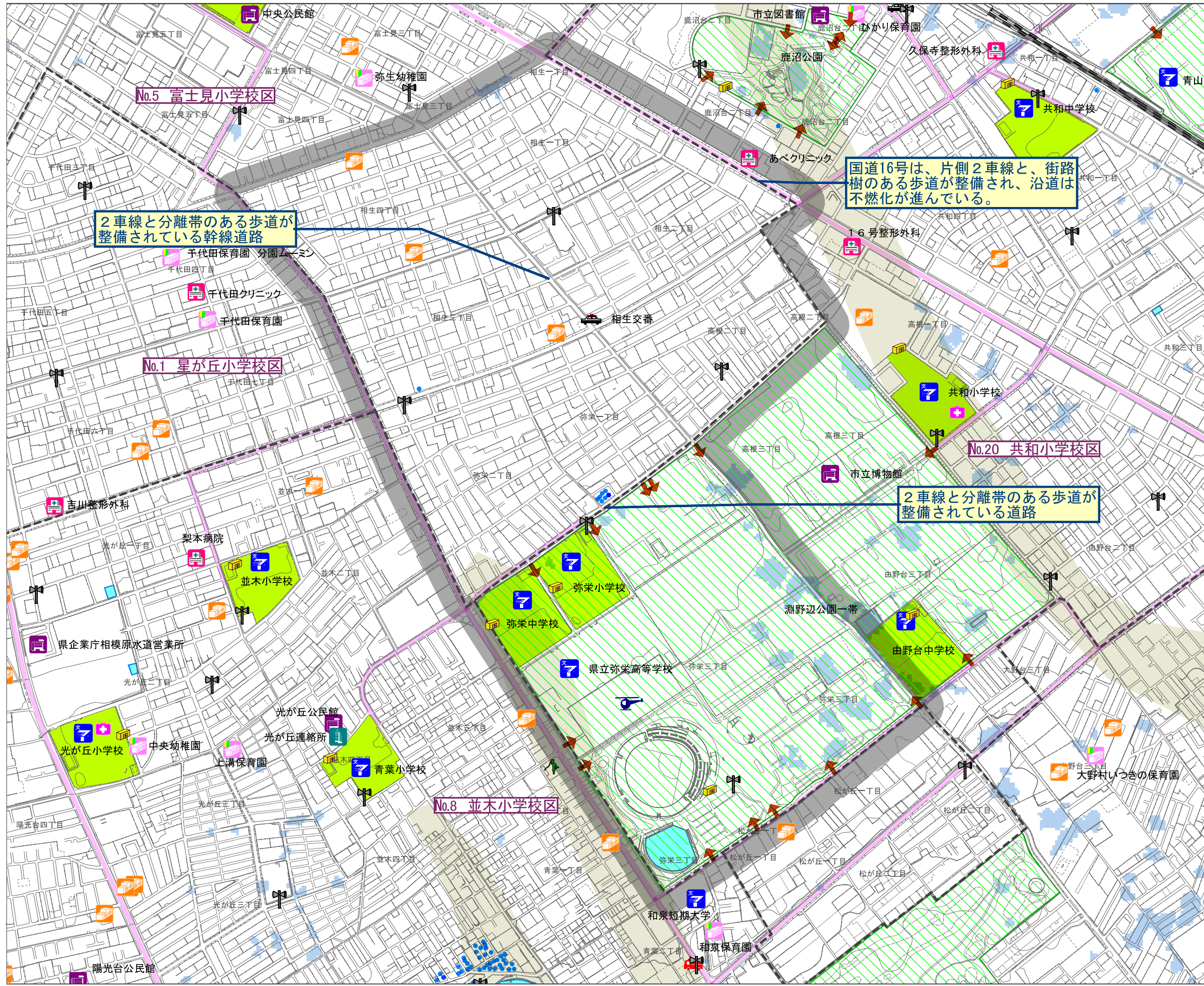
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	128棟	5.2%	42棟	1.7%	21棟	0.9%
建物焼失	26棟	1.1%	2棟	0.1%	0棟	0.0%
死者	8人	0.1%	3人	0.0%	1人	0.0%
閉込者	45人	0.5%	15人	0.2%	8人	0.1%
重傷者	9人	0.1%	3人	0.0%	2人	0.0%
軽傷者	58人	0.6%	34人	0.4%	24人	0.2%
避難所避難者(当日)	378人	3.9%	139人	1.5%	81人	0.8%
避難所避難者(1週間後)	878人	9.2%	558人	5.8%	430人	4.5%

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	■■■■
土砂災害	■■■■
地震による地盤災害	■■■■
地震による建物被害、火災	■■■■

○近年の主な災害履歴

平成 2年 8月 8日 床下浸水6戸
 平成 2年 9月30日 床下浸水4戸
 平成 3年 9月19日 床下浸水1戸、床上浸水1戸



地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

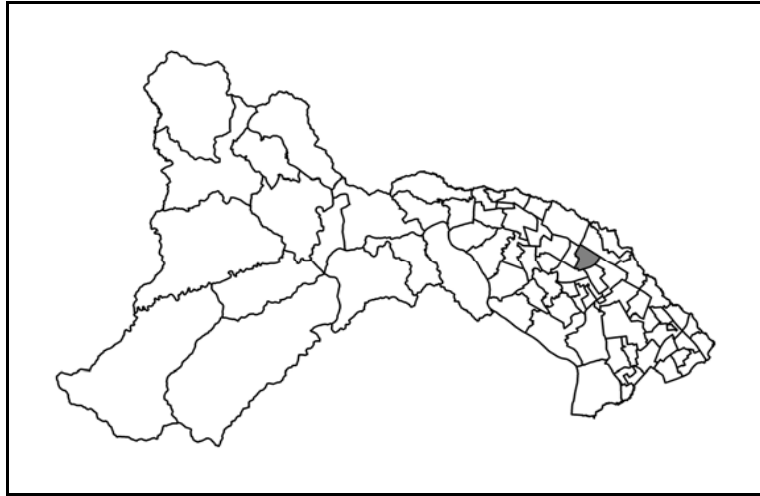
書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)

○地区を構成する町丁

【中央区】千代田3丁目、富士見1丁目～5丁目、矢部1丁目～4丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

星が丘(千代田3丁目), 中央(矢部第四, 矢部第一, 新興, 矢部第二, 富栄町, 五十和, 相模原パークハイツ, みとみ町, 富士見同人会, 富士見3丁目, 富士見四丁目, 富士見町, 富士見一, 富士見団地, あじさい第4, 中央第一, 中央第二, 富士見若葉, イニシア矢部駅前)

○地区概況

台地(上段)にあり、国道16号が地区のほぼ中央をやや斜めに横断する。住宅地が広く分布するが、国道16号沿いには商業施設、業務施設が多い。北東縁をJR横浜線が通り、矢部駅がある。

○建物数・人口

区分	建物数(棟)	建物(棟数)	
		棟数	比率
木造(昭和55年以前)	830	830	5.2%
木造(昭和56年以降)	1,407	1,407	8.1%
非木造(昭和55年以前)	147	147	0.9%
非木造(昭和56年以降)	764	764	4.4%
合計	3,149	3,149	18.6%

区分	人口(人)	人口(人)	
		人口	比率
0~4歳	733	733	4.2%
5~64歳	12,945	12,945	74.8%
65歳以上	3,365	3,365	19.0%
合計	17,043	17,043	100%

○所見

- ・北部の宅地には低く窪んでいるところがある。
- ・富士山の大規模噴火時には2~30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	中央公民館, 富士見小学校音楽練習室
警察署	
消防署	
消防団詰所	矢部
病院等	河口外科整形外科医院
主な災害時要援護者施設	ちえのわ, ツクイ・サンシャイン相模原, ツクイ相模原矢部, デイサービスセンター多喜, 西門介護センター, もみじのて矢部, 介護付有料老人ホーム イリーゼ矢部, 相模原ケアコミュニティ そよ風, ヴィラきずな・デイサービスセンターきずな, イリーゼ相模原矢部, 茶話本舗ディサービス矢部マイスペ館, グループホームたんぼぼ, グループホームひびき
幼稚園、保育園	弥生幼稚園, 相模栄光幼稚園, 相模白ゆり幼稚園, 相模保育園
学校、大学	富士見小学校
避難所 ※洪水時避難所兼用	富士見小学校
洪水時避難所	
広域避難場所	
防災備蓄倉庫 ※広域避難場所対応	富士見小学校
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

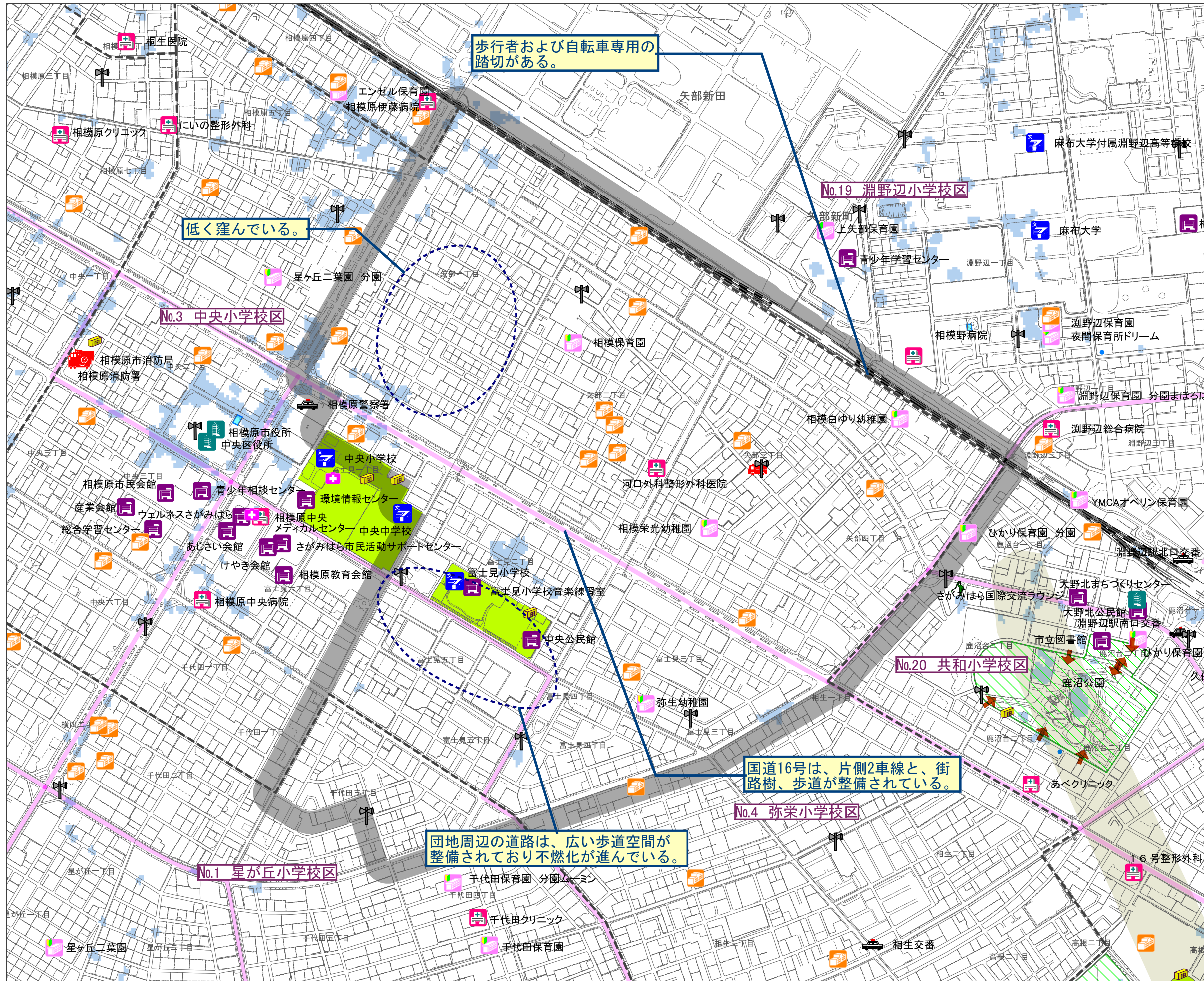
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	163 棟	5.2 %	53 棟	1.7 %	16 棟	0.5 %
建物焼失	14 棟	0.5 %	1 棟	0.0 %	0 棟	0.0 %
死者	10 人	0.1 %	3 人	0.0 %	1 人	0.0 %
閉込者	69 人	0.4 %	24 人	0.1 %	8 人	0.0 %
重傷者	13 人	0.1 %	4 人	0.0 %	1 人	0.0 %
軽傷者	77 人	0.5 %	45 人	0.3 %	23 人	0.1 %
避難所避難者(当日)	532 人	3.1 %	211 人	1.2 %	87 人	0.5 %
避難所避難者(1週間後)	1,529 人	9.0 %	1,018 人	6.0 %	651 人	3.8 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	■■■■
土砂災害	■■■■
地震による地盤災害	■■■■
地震による建物被害、火災	■■■■

○近年の主な災害履歴

なし



凡例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

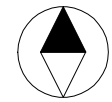
	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

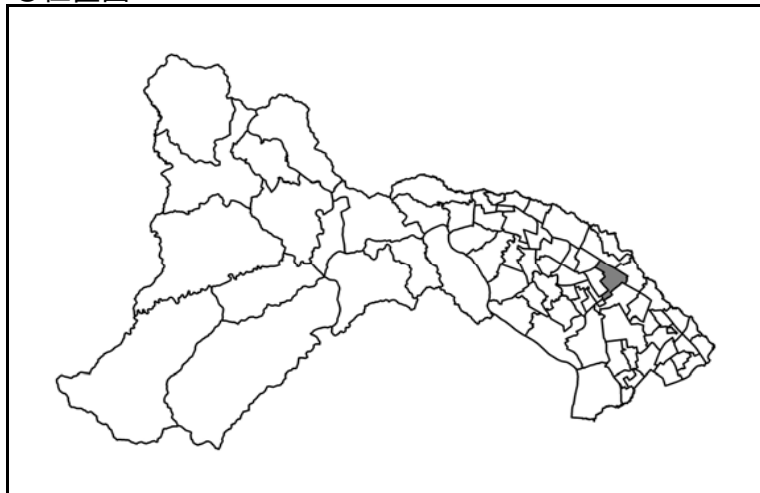
みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)



○地区を構成する町丁

【中央区】大野台3丁目、鹿沼台、共和、高根1丁目・3丁目、東淵野辺5丁目、松が丘、由野台

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

中央(松が丘), 大野北(旭町, 共和南町, 自治会法人共和, 榎町, チサンマンション鹿沼公園, 鹿沼公園ハイリビング, 自治会法人由野台睦, 由野台2丁目, 高根1丁目, ホソダ住宅)

○地区概況

大部分は平坦な地形である。地区の中央部を国道16号が、北部を県道57号相模原大蔵町線が通っている。北東端はJR横浜線に沿っており、北部に淵野辺駅がある。大部分は住宅地であるが、国道16号沿いには商業施設が並んでいる。西部には博物館や文部科学省宇宙科学研究所がある。

○建物数・人口

建物	区分		建物(棟数)
	区分	棟数	
建物	木造(昭和55年以前)	810 棟	
	木造(昭和56年以降)	1,604 棟	
	非木造(昭和55年以前)	142 棟	
	非木造(昭和56年以降)	773 棟	
	合計	3,328 棟	
人口	区分		人口(人)
	区分	人口	
人口	0~4歳	613 人	
	5~64歳	11,641 人	
	65歳以上	3,179 人	
	合計	15,433 人	

○所見

- ・避難所が地区内に3箇所あり、避難は比較的容易である。
- ・広域避難場所は地区内に2箇所あり、いずれも避難距離は短い。
- ・富士山の大規模噴火時には2~30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	大野北まちづくりセンター, 市立図書館, 市立博物館, 大野北公民館, さがみはら国際交流ラウンジ
警察署	淵野辺駅南口交番
消防署	
消防団詰所	
病院等	坂本胃腸科外科, あべクリニック, 久保寺整形外科, 16号整形外科
主な災害時要援護者施設	住宅型有料老人ホーム楓, 神奈川県立相模原中央支援学校, サポートルーム ぼっちぼっち, 相模グループホーム共和, 茶話本舗サービス淵野辺マイスペ館, 相模原市立障害者支援センター松が丘園, 障害者支援センターガイドヘルプサービス事業所
幼稚園、保育園	ひかり保育園, ひかり保育園 分園
学校、大学	由野台中学校, 共和中学校, 共和小学校
避難所 ※洪水時避難所兼用	由野台中学校, 共和小学校, 共和中学校
洪水時避難所	
広域避難場所	鹿沼公園, 淵野辺公園一帯
防災備蓄倉庫 ※広域避難場所対応	共和小学校, ※鹿沼公園, 共和中学校, 由野台中学校
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	164 棟	4.9 %	33 棟	1.0 %	25 棟	0.7 %
建物焼失	19 棟	0.6 %	1 棟	0.0 %	0 棟	0.0 %
死者	10 人	0.1 %	2 人	0.0 %	1 人	0.0 %
閉込者	62 人	0.4 %	14 人	0.1 %	10 人	0.1 %
重傷者	12 人	0.1 %	3 人	0.0 %	2 人	0.0 %
軽傷者	76 人	0.5 %	34 人	0.2 %	29 人	0.2 %
避難所避難者(当日)	485 人	3.1 %	133 人	0.9 %	100 人	0.7 %
避難所避難者(1週間後)	1,413 人	9.2 %	799 人	5.2 %	673 人	4.4 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害	
地震による地盤災害	
地震による建物被害、火災	

○近年の主な災害履歴

平成 2年 8月 8日 床上浸水1戸
平成 3年 9月19日 床下浸水1戸



凡 例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)



1:10000

